

医療介護総合確保促進法に基づく
広島県計画

令和8年1月

広島県

1. 計画の基本的事項

(1) 計画の基本的な考え方

急速に高齢化が進む中、2025年（令和7年）には、いわゆる「団塊の世代」が全て75歳以上となる超高齢社会を迎える。こうした中で、県民一人ひとりが、医療や介護が必要な状態となっても、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続し、その地域で人生の最期を迎えることができる環境を整備することは喫緊の課題である。

こうした中、医療ニーズの増加に対応して、患者の病状に応じて適切な医療を将来にわたって持続的に受けられるようにするためには、医療機能の分化及び連携を進めていく必要があるが、患者の視点に立てば、急性期の医療から在宅医療・介護での一連のサービスが適切に確保され、さらに、救急医療や居宅等で容体が急変した場合の緊急患者の受入れ等の適切な医療提供体制が確保される等、ニーズに合った医療・介護サービスが地域で適切に提供されるようにする必要がある。こういった体制整備は、地域包括ケアシステムの構築にとっても不可欠である。

このように、「効率的かつ質の高い医療体制の構築」と「地域包括ケアシステムの構築」は、地域において医療及び介護を総合的に確保していくために「車の両輪」として進めていく必要がある。

また、医療及び介護は対人サービスであり、医療及び介護の提供体制の整備には、質の高い人材を継続的に確保していくことが不可欠であり、人材の育成、就業の促進、勤務環境の改善等、質の高い人材の確保に関する取組を進めることが重要である。

さらに、急速に少子高齢化が進む中、医療及び介護の提供体制を支えるためには、限りある医療・介護資源を効率的かつ効果的に活用していく必要があり、そのためには病床の機能の分化及び連携並びに医療と介護の連携を進めていくことが重要である。

令和7年度においては、平成28年3月に策定した「広島県地域医療構想」を踏まえ、同構想の基本理念である「身近な地域で質の高い医療・介護サービスを受け、住み慣れた地域で暮らし続けることができる広島県の実現」に取り組むこととしている。

そのため、将来を見据え、医療と介護で連携し、地域における医療・介護サービスの提供体制改革を推進するため、「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（平成元年法第64号）第4条第1項の規定に基づき、広島県計画を策定する。

(2) 都道府県医療介護総合確保区域の設定

広島県における医療介護総合確保区域については、広島（広島市、安芸高田市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田町、北広島町）、広島西（大竹市、廿日市市）、呉（呉市、江田島市）、広島中央（竹原市、東広島市、大崎上島町）、尾三（三原市、尾道市、世羅町）、福山・府中（福山市、府中市、神石高原町）、備北（三次市、庄原市）の7地域とする。

2次医療圏及び老人福祉圏域と同じ

2次医療圏及び老人福祉圏域と異なる

（異なる理由：

）

(3) 計画の目標の設定等

■広島県全体

1. 目標

広島県においては、それぞれの医療介護総合確保区域において、限りある医療・介護資源を効果的に活用して、急性期医療から在宅医療・介護まで一連のサービスが適切に提供されるよう、効率的かつ質の高い医療提供体制と地域包括ケア体制の構築を図り、高齢者が地域において、安心して生活できるよう以下を目標に設定する。

① 地域療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

限られた医療・介護資源を活用した地域にふさわしいバランスのとれた医療・介護提供体制を構築するには、医療機能別の需要に応じた病床数を確保する必要があることから、「広島県地域医療構想」を踏まえ、病床機能の転換等医療機関の自主的な取組を促進する。

また、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図る。

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R6)	目標値 (R7)
高度急性期	4,578 床	2,989 床
急性期	10,409 床	9,118 床
回復期	6,764 床	9,747 床
慢性期	7,040 床	6,760 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

在宅医療に取り組む医師を確保することにより、地域包括ケアシステムを強化する。

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
R6：125 圏域→R7：125 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

令和6年度においては、第9期介護保険事業支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。

【定量的な目標値】

- ・地域密着型サービス延利用者数 H29 : 19,848 人→R7 : 23,409 人

④ 医療従事者の確保に関する目標

公益財団法人広島県地域保健医療推進機構を中心に、大学、医師会、県、市町等が一体となって医療従事者の確保を推進する。

【定量的な目標値】

- ・県内医療施設従事医師数（人口 10 万人対）
R6 : 279.5 人→R7 : 現状値以上
- ・過疎地域の医療施設従事医師数（人口 10 万人対）
R6 : 223.3 人→R7 : 現状値以上
- ・県内小児科医師数（小児人口 10 万人対）
H30 : 101.2 人→全国平均値（参考値 : 108.6 人（H30））まで増加
- ・県内地域医療に携わる女性医師数
R6 : 1,729 人→R7 : 現状値以上
- ・手当支給施設の産科・産婦人科医師数
H30 : 278 人→R7 : 390 人
- ・分娩 1000 件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数
H30 : 14.24 人→R7 : 25 人
- ・医療施設従事看護職員数
H30 : 44,184 人→R7 : 44,871 人
- ・救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18 歳未満）
H30 : 67.8%→R4 : 67.4%以下
- ・薬剤師確保対策により確保された病院薬剤師数
R8 : 44 人

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

令和 22 年には、10,039 人の介護職員の受給ギャップが生じると推計されており、必要となる介護職員の不足を解消するため、介護・看護従事者及び介護支援専門員等のスキルアップを図ることにより、介護従事者等のモチベーションを向上させるなど、人材の育成・定着を促進する。

【定量的な目標値】

- ・29 歳以下の介護職員の離職率 : 全国平均以下
全国 R6 : 18.7%、広島県 R6 : 17.7%

⑥ 勤務医の働き方改革の推進に関する目標

令和 6 年 4 月からの医師に対する時間外労働の上限規制の適用後も、引き続き、地域での医療提供体制を確保しつつ、医師の労働時間短縮を推進する。

【定量的な目標値】

- ・事業実施医療機関の年間の時間外・休日労働時間が 960 時間超の医師数の対前年度比減少

2. 計画期間

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

■広島

1. 目標

広島区域では、在宅医療提供体制の整備や在宅医療に関する人材育成が課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R6)	目標値 (R7)
高度急性期	2,731 床	1,585 床
急性期	4,151 床	4,242 床
回復期	2,838 床	4,506 床
慢性期	2,424 床	2,730 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・整備助成
 - 認知症グループホーム 整備数 2 か所
 - 小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所
 - 看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所
 - 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 整備数 1 か所
- ・開設準備
 - 開設、増床、再開（改築）時必要経費 整備数 9 か所
- ・簡易陰圧装置設置 整備数 1 か所
- ・ゾーニング環境整備 整備数 2 か所

2. 計画期間

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

■広島西

1. 目標

広島西区域では、「地域包括支援センター」やケアマネジャーを中心とした介護・福祉関係者と一体となった支援を行い、退院から日常の療養・急変時の対応が包括的・継続的に行われ、患者が望む場所での看取りができる体制整備が課題となっていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R6)	目標値 (R7)
高度急性期	270 床	156 床
急性期	509 床	410 床
回復期	235 床	515 床
慢性期	922 床	478 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・整備助成
地域密着型特別養護老人ホーム及び併設ショート 整備数 1 か所
認知症グループホーム 整備数 1 か所
- ・開設準備
開設、増床、再開（改築）時必要経費 整備数 3 か所

2. 計画期間

令和7年4月1日～令和8年3月31日

■呉

1. 目標

呉区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制の維持・確保や、病院等における看護師等の医療従事者の確保に苦慮していることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R6)	目標値 (R7)
高度急性期	312 床	287 床
急性期	1,356 床	858 床
回復期	685 床	894 床

慢性期

665 床

751 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・整備助成
定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 整備数 1 か所
- ・開設準備
開設、増床、再開（改築）時必要経費 整備数 1 か所

2. 計画期間

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

■広島中央

1. 目標

広島中央区域では、医療を必要とする高齢者の大幅な増加が見込まれる中、急性期治療後、在宅で必要な医療が受けられるよう、医療・介護を担う人材の育成や、在宅医療連携の仕組みづくりの整備が必要であるという課題が存在していることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R6)	目標値 (R7)
高度急性期	238 床	122 床
急性期	625 床	672 床
回復期	669 床	678 床
慢性期	858 床	669 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・整備助成
認知症グループホーム 整備数 2 か所
- ・開設準備
開設、増床、再開（改築）時必要経費 整備数 2 か所
- ・介護予防拠点における防災意識啓発の取組支援 整備数 100 か所

2. 計画期間

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

■尾三

1. 目標

尾三区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制を充実させるとともに、在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、在宅療養支援歯科診療所で、必要に応じて他の病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション等と連携を図り、24時間の往診、訪問看護等を提供する体制を引き続き確保するため、以下を目標とする。

- ① 地域療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標
【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R6)	目標値 (R7)
高度急性期	353 床	242 床
急性期	1,182 床	905 床
回復期	760 床	991 床
慢性期	751 床	726 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・整備助成
看護小規模多機能型居宅介護 整備数 1 か所
- ・開設準備
開設、増床、再開（改築）時必要経費 整備数 1 か所
- ・介護職員の宿舎整備 整備数 2 か所

2. 計画期間

令和7年4月1日～令和8年3月31日

■福山・府中

1. 目標

福山・府中区域では、診療所の訪問診療及び往診について、人口10万人当たりの実施件数が少なく、全国及び広島県平均と大きく隔たりがあるなど、在宅医療の充実が課題となっており、また、看護師の確保も課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、

地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R6)	目標値 (R7)
高度急性期	640 床	524 床
急性期	2,059 床	1,691 床
回復期	1,415 床	1,840 床
慢性期	760 床	976 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・整備助成
認知症グループホーム 整備数 1 か所
定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 整備数 1 か所
- ・開設準備
開設、増床、再開（改築）時必要経費 整備数 5 か所
大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数 1 か所

④ 医療従事者の確保に関する目標

【定量的な目標値】

- ・福山・府中圏域の小児科医師数（小児人口 10 万人対）
H28：68.8 人→R4：95.6 人

2. 計画期間

令和7年4月1日～令和8年3月31日

■備北

1. 目標

備北区域では、高齢化率が県内において最も高く、今後も医療を必要とする高齢者の増加が見込まれる中で、在宅医療提供体制の確立が求められていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R6)	目標値 (R7)
高度急性期	34 床	73 床

急性期	527 床	340 床
回復期	162 床	323 床
慢性期	660 床	430 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 開設準備

大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数4か所

2. 計画期間

令和7年4月1日～令和8年3月31日

(注) 目標の設定に当たっては、医療計画、介護保険事業支援計画等を踏まえ、アウトプット・アウトカムに着目したできる限り定量的な視点による目標設定を行うこと。

(4) 目標の達成状況

別紙1「事後評価」のとおり。

2. 事業の評価方法

(1) 関係者からの意見聴取の方法

令和6年9月2日～9月30日	提案募集において関係団体から意見聴取
令和7年3月6日～3月21日	第1回広島県医療介護総合確保推進委員会において 委員から意見聴取（文書開催）

(2) 事後評価の方法

計画の事後評価に当たっては、関係団体等の意見を聴きながら、必要に応じて見直しなどを行うなどにより、計画を推進していきます。

【医療分】

令和7年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

<事業区分 I-1 用>

(1) 事業の内容等

事業の区分	I-1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業			標準事業例	5															
事業名	No	1	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,975,124千円															
	病床機能分化・連携促進基盤整備事業																			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域																			
事業の実施主体	病院及び有床診療所																			
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日																			
背景にある医療・介護ニーズ	地域医療構想の実現に向けて、医療機関における病床機能分化の自主的な取組を推進する必要がある。																			
アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度事業に係る補助金活用を予定する医療機関の病床機能ごとの病床数(合計) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>病床機能報告 (令和6年7月1日時点)</th> <th>整備計画に基づく 整備後の変更病床数 (令和7年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td> <td>60床</td> <td>0床</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td>776床</td> <td>-74床</td> </tr> <tr> <td>回復期</td> <td>315床</td> <td>17床</td> </tr> <tr> <td>慢性期</td> <td>153床</td> <td>-92床</td> </tr> </tbody> </table>					区分	病床機能報告 (令和6年7月1日時点)	整備計画に基づく 整備後の変更病床数 (令和7年)	高度急性期	60床	0床	急性期	776床	-74床	回復期	315床	17床	慢性期	153床	-92床
	区分	病床機能報告 (令和6年7月1日時点)	整備計画に基づく 整備後の変更病床数 (令和7年)																	
高度急性期	60床	0床																		
急性期	776床	-74床																		
回復期	315床	17床																		
慢性期	153床	-92床																		
	<p><参考></p> <ul style="list-style-type: none"> 回復期病床9,747床(令和7年度末) 令和7年度に基金を活用して不足している回復期病床への転換を推進するとともに、その他の医療機能(高度急性期・急性期・慢性期)の事業縮小を進める。 																			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 回復期病床への転換に係る施設・設備整備や、医療機能の事業縮小、複数の医療機関間の連携による病床再編事業に対して補助を行う。 各圏域の医療需要にもとづく具体的な医療機能の分化・連携に取り組む医療機関に対し、総合的な支援を行うとともに、再編等に伴う経営的な視点での助言を行う。 地域医療構想の実現に向けた議論の加速化や、県内の医療資源の適正な配置を検討していくため、医療・介護・保健情報を活用した分析を実施する。 地域の医療提供体制を維持するため、医療機能の検討に必要な各種分析を実施し、将来のあり方についての検討を支援する。 																			

アウトプット指標	対象となる医療機関数 8施設				
アウトカムとアウトプットの関連	病床機能の再編整備を支援することにより、限られた医療資源の効率的な活用と適切な医療サービスの提供を図ることができる。				
地域医療構想の関係性及びスケジュール（注1）					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 1,975,124	
		基金	国 (A)		(千円) 1,316,749
	都道府県 (B)		(千円) 658,375	うち過年度残額 (千円) 572,827	
	計 (A+B)		(千円) 1,975,124	うち過年度残額 (千円) 1,718,480	
	その他 (C)		(千円) 0		
	基金充当額 (国費) における公民の別 (注2)	公		(千円) 478,900	うち過年度残額 (千円) 478,900
		民		(千円) 837,849	うち過年度残額 (千円) 666,753
				うち受託事業等 (注3) (千円) 107,790	うち過年度残額 (千円) 107,790
	備考	複数年度にまたがる補助事業について、次年度以降の活用額は未定。			

(注1) 区分I-1の標準業例5「病床の機能分化・連携推進のための基盤整備」かつ医療機関支援に係るソフト事業の場合のみ記載すること。

(注2) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注3) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注4) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	I-1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業			標準事業例	5
事業名	No	2	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 10,461,758千円
	病床機能分化・連携促進基盤整備事業 (高度医療・人材育成拠点整備事業)				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	広島				
事業の実施主体	新病院（県立広島病院、県立二葉の里病院（旧JR広島病院）、中電病院）				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	地域医療構想の実現に向けて、医療機関における病床機能分化の自主的な取組を推進する必要がある。				
	アウトカム指標	新病院としての1,000床（合計病床数▲235床）を整備する。			
事業の内容	・全国トップレベルの高度医療機能や、専門人材の育成機能などを有する新たな拠点の整備に向けて、広島都市圏を中心とした関係医療機関との医療機能の分化・連携に向けた協議を行うなど、基本計画の実現に向けた取組を実施する。				
アウトプット指標	対象となる医療機関数 3施設（県立広島病院712床、県立二葉の里病院275床、中電病院248床）を統合し、病床再編を図る。				
アウトカムとアウトプットの関連	病床機能の再編整備を支援することにより、限られた医療資源の効率的な活用と適切な医療サービスの提供を図ることができる。				
地域医療構想の関係性及びスケジュール（注1）					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 10,461,758	
		基金	国(A)		(千円) 165,173
	都道府県 (B)		(千円) 82,586	うち過年度残額 (千円) 82,586	
	計(A+B)		(千円) 247,759	うち過年度残額 (千円) 247,759	
	その他(C)		(千円) 10,213,999		
	基金充当額(国費)における公 民の別(注2)	公	(千円) 165,173	うち過年度残額 (千円) 165,173	

		民	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等(注3) (千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注1) 区分I-1の標準業例5「病床の機能分化・連携推進のための基盤整備」かつ医療機関支援に係るソフト事業の場合のみ記載すること。

(注2) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注3) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注4) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	I-1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業			標準事業例	1
事業名	No	3	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 30,895 千円
	ひろしま医療情報ネットワーク整備事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	一般社団法人 広島県医師会				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	地域医療構想に基づいた病床機能の分化・連携を進めるとともに、在宅医療への移行を円滑に進める必要がある。				
	アウトカム指標	ICTを活用した医療情報ネットワークの構築 R7年度：開示病院46機関 (R6年度：46機関) ※開示病院数は一定の成果加入が図られたため変更なし			
事業の内容	HMネット参加医療機関の初期整備を実施する。				
アウトプット指標	HMネット参加医療機関数 R7年度：開示病院46機関 参照医療機関443機関				
アウトカムとアウトプットの関連	参加医療機関数を増加させることにより、医療情報ネットワークの構築・拡大が進み、更なる医療情報の連携が図られることで、HMネットは病床機能の分化と連携を推進するための有用なツールとなる。				
地域医療構想の関係性及びスケジュール(注1)					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	/
				30,895	
	基金	国(A)		(千円)	うち過年度残額
				20,597	(千円)
				20,597	20,597
	都道府県(B)		(千円)	うち過年度残額	(千円)
		10,298	10,298		
計(A+B)		(千円)	うち過年度残額	(千円)	
		30,895	30,895		
その他(C)		(千円)	/		
		0			
基金充当額(国費)における公民の別(注2)		公	(千円)	うち過年度残額	(千円)
			—	—	

		民	(千円) 20,597	うち過年度残額 (千円) 20,597
			うち受託事業等(注3) (千円) 20,597	うち過年度残額 (千円) 20,597
備考				

(注1) 区分I-1の標準業例5「病床の機能分化・連携推進のための基盤整備」かつ医療機関支援に係るソフト事業の場合のみ記載すること。

(注2) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注3) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注4) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

令和7年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

<事業区分 I-2 用>

(1) 事業の内容等

事業の区分	I-2 地域医療構想の達成に向けた病床数又は病床の機能の変更に関する事業			標準事業例	
事業名	No	4	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 686,964千円
	病床機能再編支援事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	呉、広島、広島西、尾三				
事業の実施主体	広島県内の医療機関				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	中長期的な人口減少・高齢化の進行を見据えつつ、新型コロナウイルス感染症への対応により顕在化した地域医療の課題への対応を含め、地域の実情に応じた質の高い効率的な医療提供体制を構築する必要がある。				
	アウトカム指標	基金を活用して再編を行う医療機関及び病床機能毎の病床数(許可病床数) 急性期病床 ▲172床 慢性期病床 ▲71床			
事業の内容	医療機関が、地域の関係者間の合意の上、地域医療構想に即した病床機能再編の実施に伴い、減少する病床数に応じた給付金を支給する。				
アウトプット指標	対象となる医療機関数 6医療機関				
アウトカムとアウトプットの関連	地域医療構想調整会議等の合意を踏まえ自主的に病床数を減少する医療機関に対し財政支援することにより、地域医療構想の実現に向けた取組の促進を図る。				

事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 686,964	
	基金	国(A)	(千円) 686,964	うち過年度残額 (千円) 530,328
		都道府県(B)	(千円) 0	うち過年度残額 (千円) 0
		計(A+B)	(千円) 686,964	うち過年度残額 (千円) 530,328
	その他(C)	(千円) 0		

	基金充当額（国費）における公民の別（注2）	公	(千円) 322,164	うち過年度残額 (千円) 192,888
		民	(千円) 364,800	うち過年度残額 (千円) 337,440
			うち受託事業等（注3） (千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考				

（注1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注2）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

令和7年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

＜事業区分Ⅱ、Ⅳ、Ⅵ用＞

(1) 事業の内容等

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業			標準事業例	7
事業名	No	5	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 15,040千円
	ひろしまDMステーション発啓発分析等事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	広島大学				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の人口10万人当たりの糖尿病専門医は全国平均より少なく、地域偏在もある。この現状を補うため、広島県保健医療計画において、医療機能の分化と役割の明確化を図り、拠点・中核病院を指定して、圏域ごとにかかりつけ医や専門医との医療連携体制を構築することとしているが、拠点・中核病院を中心とした連携体制が構築できていないとはいえず、糖尿病診療に係る医療連携体制の強化を図り、糖尿病の重症化や合併症の発症を予防する必要がある。</p>				
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 新規人工透析患者数(人口10万人) 広島県 41.1 (H27) ⇒ 37.0 (R3) ⇒ 35.6 (R6) 			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 各圏域の糖尿病の医療や連携の実態調査及び現状分析、課題抽出 拠点・中核病院との連携体制構築のための、新たな会議体の設置 医療連携体制強化、糖尿病診療に係るチーム医療推進に向けた取組の検討、研修会や事例検討会の実施 糖尿病性腎症重症化予防事業の効果検証及び今後の対応策の検討 				
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 医療連携実態調査の実施 糖尿病診療拠点・中核病院との会議開催(1回) 				
アウトカムとアウトプットの関連	「ひろしまDMステーション」を拠点とした実態調査及び課題抽出、連携病院へのフィードバック等を通じて、県全域の糖尿病医療レベルの補完・向上につながり、糖尿病の重症化や合併症の発症を予防することができる。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円)	/	
			15,040		
	基金	国(A)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			10,027	557	
		都道府県(B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	

				5,013	279
			計 (A+B)	(千円) 15,040	うち過年度残額 (千円) 836
		その他 (C)	(千円) 0		
	基金充当額 (国費) における公民の別 (注 2)	公		(千円) 10,027	うち過年度残額 (千円) 557
			民	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等 (注3)	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考					

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業			標準事業例	8	
事業名	No	6	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,136千円	
	心不全患者包括ケアネットワーク連携強化 支援事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島大学病院心不全センター、地域心臓いきいきセンター（安佐市民病院、広島総合病院、中国労災病院、東広島医療センター、尾道総合病院、三次地区医療センター）					
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	これまで構築した心不全患者に係るネットワークを発展させ、心不全患者の継続した包括的心臓リハビリテーション実施に寄与する連携を実現し、ネットワーク内にとどまらず、患者に関わる支援者・関係者に活用される体制を構築することで、増加が見込まれる心不全患者が退院後も安心して在宅療養を行える環境を整備し、生活の質を向上させる。					
	アウトカム 指標	・虚血性心疾患退院患者平均在院日数 7.2日(R2)→6.0日(R5)				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> これまで構築したネットワークの強化として、会議体の維持、症例検討会やネットワーク内外の医療・介護関係者向け研修会の実施 心不全手帳の改訂及び広島県版包括的心臓リハビリテーション連携パスの作成 					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 心不全手帳の改訂（R7年度末） 広島県版包括的心臓リハビリテーション連携パスの作成（R7年度末） 					
アウトカムとアウトプットの 関連	急性期と回復期の病院、さらに在宅医療までの構築された連携体制を活用し、在宅生活を支える医療・介護の各専門職が心不全の専門的知見をもって患者の在宅支援を行うことで、患者が退院しても在宅等の生活の場で療養継続できる環境を確保する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)		
				5,136		
	基金	国(A)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	3,424	3,424
		都道府県 (B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	1,712	1,712
	計(A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)			

				5,136	5,136
		その他 (C)		(千円) 0	
	基金充当額 (国費) における公民の別 (注 2)	公		(千円) 3,424	うち過年度残額 (千円) 3,424
		民		(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等 (注3)		(千円) —
備考					

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業			標準事業例	19
事業名	No	7	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,963千円
	在宅歯科診療設備整備事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	ごこちデンタルクリニック 他 16 歯科医療機関				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展に伴い、在宅で療養生活を送る高齢者が増加し、在宅医療のニーズも増加が見込まれているため、在宅歯科診療等の専門的な機能を有した歯科医療機関を増加させる必要がある。				
	アウトカム指標	訪問口腔衛生指導を実施している診療所・病院数 255 施設（令和4年度）→370 施設以上（令和11年度）			
事業の内容	在宅療養者への口腔ケア及び在宅介護者への歯科口腔保健指導に必要な歯科医療機器等の設備整備に対して補助する。				
アウトプット指標	整備歯科医療機関数 17 施設				
アウトカムとアウトプットの関連	在宅療養者への口腔ケア及び在宅介護者への歯科口腔保健指導を実施する歯科医療機関を補助することで、在宅における口腔ケア等の実施件数の増加及び質の向上を図り、訪問口腔衛生指導等を実施する歯科医療機関数の増加に繋げる。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	
				3,963	
	基金	国 (A)	(千円)	うち過年度残額	
			2,642	(千円) 2,642	
		都道府県 (B)	(千円)	うち過年度残額	
	1,321	(千円) 1,321			
	計 (A+B)	(千円)	うち過年度残額		
3,963	(千円) 3,963				
その他 (C)	(千円)				
		0			
基金充当額 (国費) における公民の別 (注 2)	公	(千円)	うち過年度残額		
		—	(千円) —		
	民	(千円)	うち過年度残額		
		2,642	(千円) 2,642		

			うち受託事業等（注3） （千円） —	うち過年度残額 （千円） —
備考				

（注2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業			標準事業例	21, 33	
事業名	No	8	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 125 千円	
	歯科衛生士修学支援事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	一般社団法人広島県歯科医師会					
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	<p>高齢化に伴い、介護予防等のための口腔ケアや在宅歯科医療における口腔ケアの需要が増加する中で、歯科衛生士の役割は今後ますます大きくなると考えられる。</p> <p>一方、訪問歯科診療の実施には、一歯科診療所に歯科衛生士が複数配置されることが望ましいと言われているが、中山間地域などにおいては、平均1.5人未満と少ない市町が多くある。</p> <p>こうした地域では、訪問口腔ケアや訪問口腔衛生指導等の実施が困難となっている。</p>					
	アウトカム指標	<p>訪問口腔衛生指導を実施している診療所・病院数 255 施設 (令和4年度) → 370 施設以上 (令和11年度)</p>				
事業の内容	<p>修学支援金を歯科衛生士養成校の学生に貸与し、返済を免除する代わりに、一定期間は就業歯科衛生士が不足している市町の歯科診療所に勤務する条件を課すことで、中山間地域等における就業歯科衛生士を確保し、訪問歯科診療などの歯科医療提供の充実を図る。</p>					
アウトプット指標	中山間地域への就業数 延べ7名					
アウトカムとアウトプットの関連	中山間地域等における就業歯科衛生士を確保することで当、地域において訪問口腔ケアや訪問口腔衛生指導を実施する歯科医療機関数の増加に繋げる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)		
				125		
		基金	国 (A)		(千円)	うち過年度残額 (千円)
					83	83
			都道府県 (B)		(千円)	うち過年度残額 (千円)
		42	42			
計 (A+B)		(千円)	うち過年度残額 (千円)			
		125	125			
その他 (C)		(千円)				
		0				

	基金充当額（国費） における公民の別（注 2）	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 83	うち過年度残額 (千円) 83
			うち受託事業等（注3） (千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考				

（注2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業			標準事業例	—
事業名	No	9	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 19,200千円
	医療介護情報連携推進事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	一般社団法人 広島県医師会				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	地域包括ケアシステムの構築や、在宅医療体制の充実、かかりつけ医の普及等を円滑に進めるためには、医療機関間や多職種での効率的な情報連携を促進する必要がある。				
アウトカム指標	ICTを活用した医療情報ネットワークの構築 R6年度：参加医療機関数 443・介護施設等の数 349 機関 ⇒R7年度：参加医療機関数 443 機関・介護施設等の数 527 機関				
事業の内容	地域包括ケアシステムの構築や、地域における在宅医療体制の充実を図るため、医師・多職種間の情報連携に使用する帳票類等の現状把握を行うとともに、これらの帳票類の円滑な共有を図る手法（医療情報ネットワーク等）について検討し、それらの普及に係る取組を支援する。				
アウトプット指標	HMネット参加医療・介護機関数 R7年度 参照医療機関 443 機関 参照介護機関 527 機関				
アウトカムとアウトプットの関連	医療情報ネットワークの加入を増やすことで、医療情報等の連携がより円滑になり、医療と介護の連携を推進する。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	—
		(A+B+C)		19,200	
	基金	国 (A)	(千円)	うち過年度残額	
			12,800	(千円) 2,021	
		都道府県 (B)	(千円)	うち過年度残額	
	計 (A+B)	(千円)	(千円)		
19,200	19,200	3,032			
その他 (C)	(千円)	—	—		
0	0	0	0		
基金充当額 (国費)における公民の別 (注2)	公	(千円)	うち過年度残額		
—	—	—	—		

		民	(千円)	うち過年度残額 (千円)
			12,800	2,021
		民	うち受託事業等(注3) (千円)	うち過年度残額 (千円)
			12,800	2,021
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業			標準事業例	—
事業名	No	10	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 10,612千円
	オンライン診療活用検討事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	広島県				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	地域によって医療従事者等の医療資源が偏在しており、特に無医地区の増加など、医療提供が困難な地域が生じている。				
	アウトカム指標	オンライン診療を活用した実証件数5施設			
事業の内容	対面診療が困難、へき地等の通院の負担が大きい患者に対して、在宅等からオンライン診療の活用を検討し、患者等の負担の軽減を図る。 このために、オンライン診療の導入が必要な医療機関に対する導入支援を実施し、オンライン診療を活用した実証を行う。				
アウトプット指標	「情報通信機器を用いた診療」に係る診療報酬の届出医療機関数の割合 (病院・医科診療所) R7年度：16.0% (441施設)				
アウトカムとアウトプットの関連	オンライン診療を活用した実証を行うためには、「情報通信機器を用いた診療」に係る診療報酬の届出が必要なため。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	
		(A+B+C)		10,612	
	基金	国(A)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
		7,075	0		
		都道府県(B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
	3,537	0			
	計(A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
10,612	0				
その他(C)	(千円)				
0					
基金充当額(国費)における公民の別(注2)	公	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
	—	—			
民	(千円)	うち過年度残額 (千円)			

			7,075	—
			うち受託事業等（注3） （千円）	うち過年度残額 （千円）
			7,075	—
備考				

（注2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	25
事業名	No	11	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 128,000千円
	地域医療支援センター運営事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	広島県				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	県内では、若手医師の減少、医師の地域・診療科偏在、医療需要増加による医師不足が懸念されており、地域医療体制の維持を図るために人材育成や医師確保対策、医師の配置調整を行う必要がある。				
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内医療施設従事医師数（人口10万人対） 272.6人（R4）→ 現状値以上（R7） ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対） 210.8人（R4）→ 現状値以上（R7） ※厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計（隔年実施）」による			
事業の内容	医師確保や地域医療の支援に係る事業を行う ①地域医療に携わる医師の確保 臨床研修病院の支援、地域卒医学生等を対象とした「地域医療セミナー」開催、県外医師・女性医師・ベテラン医師の就業支援、奨学金貸与医師・自治医大卒医師の配置調整等 ②地域医療の環境整備 若手医師の研修研鑽支援等 ③情報収集・情報発信 「ふるさとドクターネット広島」による県内外医師への情報発信等 ④その他人件費、事務費等				
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師の派遣・斡旋 県内外からの就業斡旋数：5人以上（R7） ・ 地域卒卒業医師のキャリア形成プログラム 参加割合：9割以上（R7） ・ 初期臨床研修医確保（マッチング）数：181人（R7） 				
アウトカムとアウトプットの関連	県内の医療施設従事医師数が増加する最大の要因は、県内で新たに医師として業務を始める初期臨床研修医の増加数であるため、この指標を選択した。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円)		
		基金 国 (A)	128,000 (千円)		
				うち過年度残額 (千円)	

				62,422	0	
			都道府県 (B)	(千円) 31,211	うち過年度残額 (千円) 0	
			計(A+B)	(千円) 93,633	うち過年度残額 (千円) 0	
			その他(C)	(千円) 34,367		
	基金充当額(国費) における公民の別(注 2)	公		(千円) —	うち過年度残額 (千円) —	
			民	(千円) 62,422	うち過年度残額 (千円) —	
			うち受託事業等(注3)	(千円) 62,422	うち過年度残額 (千円) —	
	備考					

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	28
事業名	No	12	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 60,783千円
	産科医等確保支援事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	土谷総合病院 他				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	過酷な勤務環境にある産科・産婦人科医師等が減少している現状に鑑み、産科医療機関が支給している分娩手当や、後期臨床研修医に支給する手当に対し助成することで、地域でお産を支える産科医等の処遇を改善し、将来の産科医療を担う医師の育成・確保を図るとともに、地域の周産期を支援する。				
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 406人(R4) → 397人(R5) → 390人(R7) ・ 分娩1000件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数 21.77人(R4) → 24.03人(R5) → 25人(R7) ・ 支給分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数 手当支給者数397人／支給分娩取扱件数16,515件(R5) ※分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数についての正確なデータがないため、H30支給対象医療機関の実績をもとに作成している。			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周産期母子医療センターや民間の分娩取扱期間の産科医・助産師に対して、分娩手当の一部を補助 ・ 臨床研修終了後の専門的な研修において、産科を選択する医師に対し、後期臨床研修医手当を支給する医療機関に手当の一部を補助 ・ 診療報酬の対象となるNICUの新生児担当医に新生児医療手当を支給する医療機関に対し、手当の一部を補助 				
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師の派遣・斡旋 県内外からの就業斡旋数：5人以上(R7) ・ 地域卒卒業医師のキャリア形成プログラム 参加割合：9割以上(R7) ・ 初期臨床研修医確保(マッチング)数：181人(R7) 				
アウトカムとアウトプットの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手当支給者数 406人(R4) → 現状値を維持(R7) ・ 手当支給施設数 40施設(R5) → 36施設(R6) → 36施設(R7) 				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	60,783

	基金	国 (A)	(千円) 40,522	うち過年度残額 (千円) 0
		都道府県 (B)	(千円) 20,261	うち過年度残額 (千円) 0
		計 (A + B)	(千円) 60,783	うち過年度残額 (千円) 0
		その他 (C)	(千円) 0	
	基金充当額 (国費) における公民の別 (注 2)	公	(千円) 14,991	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 25,531	うち過年度残額 (千円) —
		うち受託事業等 (注3)	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	32
事業名	No	13	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 47,955千円	
	女性医師等就労環境整備事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	医療機関					
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	女性医師の復職支援や離職防止策を強化することにより、将来的な医師不足の解消を図ることができる。					
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・県内地域医療に携わる女性医師数 1,729人(R6) → 現状値以上(R7) ※厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計(隔年実施)」による 				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・女性医師等短時間正規雇用導入支援事業 女性医師等の離職防止・復職支援のため、短時間正規雇用制度を医療機関が導入し、短時間正規雇用の勤務形態により女性医師等を雇用。 ・ベビーシッター等活用支援事業 ベビーシッターやファミリーサポートセンター等を活用した女性医師等に対し、その経費の一部を助成(保育所除く)する。 ・宿直等代替職員活用支援事業 育児・介護中の女性医師等の宿直・休日勤務を免除し、当該医師の代わりに非常勤勤務医師を宿直勤務させる。 ・復職研修支援事業 育児のために離職し、再就業に不安を抱える女性医師等を対象として、指導医のもとで復職研修受入を行う。 ・保育サポーターバンク事業 女性医師等の育児による離職防止のため、急な呼び出し時の預かり等医師特有のニーズに対応可能な保育サポーターを確保し、派遣する。 					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・女性医師短時間正規雇用導入支援事業 申請医療機関数：26機関 ・宿直代替職員活用支援事業 申請医療機関数：20機関 ・保育サポーターバンク事業 申請医療機関数：1機関 					
アウトカムとアウトプットの関連	女性医師等の離職防止及び短時間正規雇用を促進することで、女性医師等の安定的確保につなげる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費			(千円)	

		(A+B+C)	47,955	
	基金	国(A)	(千円) 31,970	うち過年度残額 (千円) 0
		都道府県 (B)	(千円) 15,985	うち過年度残額 (千円) 0
		計(A+B)	(千円) 47,955	うち過年度残額 (千円) 0
		その他(C)	(千円) 0	
	基金充当額(国費) における公民の別(注 2)	公	(千円) 7,858	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 24,112	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等(注3)	(千円) —
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	52
事業名	No	14	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】	177,635 円
	小児救急医療確保対策事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	医療機関					
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	休日・夜間の病院への軽症小児患者が集中すること等から、小児科医等の負担が増大しており、適切な小児救急医療体制の確保を図ることが困難な状況がある。					
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 小児死亡率（小児人口千人対） 直近値（H30-R4の5年間平均）0.18 [全国：0.18] → 全国平均値以下（直近5年間平均） 				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 休日・夜間の当番日に小児科医が当直し、受入体制を確保することに対する補助 24時間体制で小児救急患者を受け入れる医療機関に補助 					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 小児救急医療支援事業：補助者数4市の維持 小児救急医療拠点病院運営事業：4機関の維持 					
アウトカムとアウトプットの関連	小児二次救急医療体制を確保することにより、小児科医師等の負担軽減を図り、小児科医師の確保を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	/	
				177,635		
	基金	国(A)	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
			118,423	118,423		
		都道府県(B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
			59,212	59,212		
		計(A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
		177,635	177,635			
	その他(C)		(千円)	/		
			0			
基金充当額(国費)における公民の別(注2)	公	(千円)	うち過年度残額 (千円)			
		118,423	118,423			
	民	(千円)	うち過年度残額 (千円)			

			—	—
			うち受託事業等（注3） （千円）	うち過年度残額 （千円）
			—	—
備考				

（注2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	53
事業名	No	15	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 42,509千円	
	小児救急医療電話相談事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	救急搬送人員に占める軽症患者の割合(18歳未満)が多く、小児科医の負担が増しており、適切な小児救急医療体制の確保を図る必要がある。					
	アウトカム指標	・救急搬送人員に占める軽症患者の割合(18歳未満) 71.2%(R4) → 71.2%以下(R7見込)				
事業の内容	・小児救急電話相談協議会の運営及び環境整備 ・小児救急電話相談事業の委託、システム保守					
アウトプット指標	小児救急医療電話相談件数 22,000件(R7見込)					
アウトカムとアウトプットの関連	休日・夜間の小児患者に関する電話相談窓口を設置し、適切に対応することによって、病院への軽症小児患者の集中を回避し、小児科医等の負担軽減と重症小児患者への救急医療の確保を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	/	
		基金	国(A)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
				19,165	19,165	
			都道府県 (B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
				9,582	9,582	
			計(A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
				28,747	28,747	
		その他(C)		(千円)	/	
				13,762		
	基金充当額(国費) における公民の別(注 2)	公	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
			105	105		
		民	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
			19,060	19,060		

			うち受託事業等（注3） （千円） 19,060	うち過年度残額 （千円） —
備考				

（注2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	25
事業名	No	16	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 304,800千円
	広島県医師育成奨学金貸付金				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	広島県				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	県内では、若手医師の減少、医師の地域・診療科偏在、医療需要増加による医師不足が懸念されており、地域医療体制の維持を図るために人材育成や医師確保対策、医師の配置調整を行う必要がある。				
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内医療施設従事医師数（人口10万人対） 272.6人（R4）→ 現状値以上（R7） ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対） 210.8人（R4）→ 現状値以上（R7） ※厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計（隔年実施）」による			
事業の内容	医学部学生等に奨学金を貸与し、返済を免じる代わりに、一定期間以上を医師が不足する中山間地域（又は特定診療科）に勤務する条件を課すことで、地域医療に従事する医師を確保し、地域偏在等の解消を図る。				
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修医確保（マッチング）数：178人 ・ 地域枠卒業医師のキャリア形成プログラムの策定数及び履行率：27診療科（要件履行に係る任意猶予期間の者を除いた履行率：100%） ・ 貸与学生数（地域枠：115名、一般募集：12名） 				
アウトカムとアウトプットの関連	本事業の効果は県内医療施設従事医師数の増加に直結するため、この指標をアウトカム指標とした。ただし、この指標は隔年の調査であり、また調査結果の公表に時間がかかるため、事業年度中の新規医師数の増加を測る指標として、当該年度中に判明する初期臨床研修医確保数（マッチング数）及び地域枠卒業医師の県内プログラムの策定・履行率をアウトプット指標として選択した。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	
		(A+B+C)		304,800	
	基金	国(A)	(千円)	うち過年度残額	
都道府県(B)		(千円)	(千円)		
		144,000	0		
		72,000	0		

		計 (A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)
			216,000	0
	その他 (C)		(千円)	
			88,800	
	基金充当額 (国費) における公民の別 (注 2)	公	(千円)	うち過年度残額 (千円)
		144,000	—	
民		(千円)	うち過年度残額 (千円)	
		—	—	
		うち受託事業等 (注3)	(千円)	うち過年度残額 (千円)
			—	—
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	— その他⑩
事業名	No	17	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 40,000 千円
	広島大学医学部寄附講座運営事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	広島大学				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	地域医療構想に基づく病床機能の分化・連携を進めるための地域の受け皿として、居宅等で必要な医療が受けられる環境構築や、高齢化や過疎化の進展等による在宅医療ニーズの高まりに対応するため、地域における医療提供・連携体制の確保と、それを担う人材育成を進めていく必要がある。				
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内医療施設従事医師数（人口10万人対） 272.6人（R4）→ 現状値以上（R7） ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対） 210.8人（R4）→ 現状値以上（R7） ※厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計（隔年実施）」による			
事業の内容	住み慣れた地域での在宅生活が維持され、必要な医療が受けられる体制構築と人材育成を推進するため、広島大学医学部に寄附講座を設置し、医療過疎地において特に求められる「総合医」の知識・技能を学ぶ機会を提供し、在宅医療等の医療ニーズに対応する医師の育成と資質向上・定着促進を図るとともに、診療応援を通じた在宅医療を担う医療機関への支援の実施や、患者家族を支える関係機関のネットワーク化を図る。				
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修医確保数（マッチング数：181人） ・ 広島大学医学部地域医療システム学講座の開講（R7.4～R8.3） 				
アウトカムとアウトプットの関連	本事業の効果は県内医療施設従事医師数の増加に直結するため、この指標をアウトカム指標とした。ただし、この指標は隔年の調査であり、また調査結果の公表に時間がかかるため、事業年度中の新規医師数の増加を測る指標として、当該年度中に判明する初期臨床研修医確保数（マッチング数）をアウトプット指標として選択した。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	うち過年度残額 (千円)
				40,000	
	基金	国 (A)	(千円)	0	うち過年度残額 (千円)
	都道府県 (B)	(千円)			

				13,333	0
			計 (A+B)	(千円) 40,000	うち過年度残額 (千円) 0
		その他 (C)	(千円) 0		
	基金充当額 (国費) における公民の別 (注 2)	公		(千円) 26,667	うち過年度残額 (千円) —
			民	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等 (注3)	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考					

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	26	
事業名	No	18	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 12,168千円	
	包括的過疎地域医師育成・活躍支援システム整備事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	地方独立行政法人広島市立病院機構(安佐市民病院)、地域医療連携推進法人備北メディカルネットワーク(三次中央病院 外)、福山市(福山市民病院)、JA尾道総合病院					
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	医師が都市部に集中する地域偏在を解消し、過疎地域においても安心して必要な医療が受けられる医療提供体制の確保が必要。					
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 過疎地域の医療施設従事医師数(人口10万人対) 210.4人以上(R4)→現状値以上(R7) ※厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計(隔年実施)」による 				
事業の内容	<p>中核的なへき地医療拠点病院等を中心とした広域的ネットワークを形成し、過疎地域において勤務する医師への研鑽支援等による定着促進や医療提供体制の確保を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師の研修研鑽支援(研修機会提供、診療相談、代診医等派遣調整等) 支援環境・体制の整備(関係者会議の開催等) 					
アウトプット指標	研鑽支援等への参加及び協力医師数(延数)900人以上					
アウトカムとアウトプットの関連	地域の医療従事者の参加・協力の下で、若手医師会等が研鑽・活躍できる環境や仕組みづくりを通じて、過疎地域で従事する医師の確保・定着を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円)	/		
			12,168			
	基金	国(A)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	0	
		都道府県(B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	0	
		計(A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	0	
		その他(C)	(千円)	0		
	基金充当額(国費) における公民の別(注)	公	(千円)	うち過年度残額 (千円)		

	2)		8,112	—
		民	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等(注3) (千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	— その他⑩
事業名	No	19	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 21,000 千円
	県東部小児・周産期救急医療体制確保事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	尾三、福山・府中				
事業の実施主体	広島県				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	小児科及び産婦人科医師不足により県東部地域の小児・周産期救急医療提供体制の維持が困難となる恐れがあることから、寄付講座を設置することにより、地域的偏在の解消を図り、小児・周産期救急医療提供体制の確保を図る必要がある。				
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 福山・府中圏域の新生児科医師増員数(拠点病院) 0人(R2) → 1人(R7) 福山・府中圏域の産婦人科医師増員数(拠点病院) 5人(R2) → 6人(R10) 			
事業の内容	小児科医師不足による県東部地域の小児・周産期救急医療提供体制の維持を図るため、岡山大学医学部に寄付講座を設置し、講座の教員が、拠点となる医療機関において地域医療研究を行いながら、診療現場に参画することで、小児二次救急医療提供体制を確保する。				
アウトプット指標	岡山大学医学部寄附講座の設置 (R7.4～R8.3)				
アウトカムとアウトプットの関連	寄付講座を設置し、福山・府中圏域の診療現場への参画や、医師養成を図ることにより、県東部地域での小児科勤務医師の確保を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	
		(A+B+C)		21,000	
	基金	国(A)	(千円)	うち過年度残額	(千円)
		都道府県(B)	(千円)	うち過年度残額	(千円)
		計(A+B)	(千円)	うち過年度残額	(千円)
		その他(C)	(千円)		0
基金充当額(国費)における公民の別(注2)	公	(千円)	うち過年度残額	(千円)	
		14,000		—	

		民	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等(注3) (千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	—
事業名	No	20	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,150千円
	総合診療専門医確保・育成事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	広島県				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者の増加が見込まれる中、幅広い領域の疾患を総合的に診ることができ、患者が地域で生活するために必要な医療を提供することのできる総合診療医の確保が必要。				
	アウトカム指標	・総合診療専門研修プログラム専攻医師数：8名（令和7年度）			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・若手医師等との意見交換会及び県内研修プログラム等を紹介するセミナーの開催 ・県内指導体制の充実に向けた指導医同士の意見交換会の開催や研修プログラム実施医療機関の指導環境の充実に向けた支援 				
アウトプット指標	・セミナー参加者数：50名				
アウトカムとアウトプットの関連	総合診療医の確保・育成が喫緊の課題となっているため、若手医師等へセミナーを開催することで、総合診療医に興味を持たせることやキャリアイメージを持たせ、また指導医の育成のための意見交換会等を行い、より効果的な総合診療医の確保につなげる。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	
		(A+B+C)		4,150	
	基金	国(A)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
		2,767	0		
		都道府県(B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
	1,383	0			
計(A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)			
4,150	0				
その他(C)	(千円)				
0					
基金充当額(国費)における公民の別(注2)	公	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
2)		2,767	—		

		民	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等(注3) (千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36
事業名	No	21	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 20,858千円	
	看護職員の資質向上支援事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	患者ニーズの多様化やチーム医療の推進、在宅医療への転換、新興感染症の発生に伴い、高度な専門知識と技術を持った看護師が必要とされている。					
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・特定行為研修修了者数（総数）：130人（R7） ・認定看護師数：609人（R6.12）→前年より増（R7） 				
事業の内容	看護職員の資質向上を図るため、県内の病院等に対して、特定行為研修受講及び認定看護師教育機関への派遣に対する支援を行うとともに、特定行為研修制度の普及を促進する。また、専門家のいない中小病院や福祉施設に対し、感染管理認定看護師等を派遣し、感染症対応力向上のための研修を実施する。					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・特定行為研修機関・認定看護師教育機関派遣支援事業 研修派遣助成 20人以上 ・感染症対応力向上事業 研修会又は訪問指導を7か所以上実施 					
アウトカムとアウトプットの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の病院等における認定看護師数及び特定行為研修を受講した看護師数が増加することにより、これらの看護師が中心となって地域の指導的役割を担い、質の高い看護を提供することが可能となる。 ・感染症対策の観点からも、専門的な看護師の活動の場を提供することで、地域での感染症対応力の向上を図ることが可能となる。 					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)		
		(A+B+C)		20,858		
	基金	国(A)		(千円)	うち過年度残額	
				13,905	(千円)	0
都道府県(B)		(千円)	うち過年度残額			
		6,953	(千円)	(千円)	0	
計(A+B)		(千円)	うち過年度残額		(千円)	0
		20,858	(千円)			0

	その他 (C)	(千円)		
		0		
	基金充当額 (国費) における公民の別 (注 2)	公	(千円)	うち過年度残額 (千円)
			366	—
	民	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
		13,539	—	
		うち受託事業等 (注3)	うち過年度残額 (千円)	
		(千円)	(千円)	
		2,703	—	
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	41
事業名	No	22	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 56,190 千円	
	ナースセンター事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	今後増加が見込まれる医療ニーズに対応するには、潜在看護職員の再就業を促進する必要がある。					
	アウトカム 指標	<ul style="list-style-type: none"> ・再就業者の雇用継続率：R6の80.3%を上回る（R7） （※広島県ナースセンター実績） 				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 離職者支援事業（届出制度に伴う情報把握や支援体制の強化） <ul style="list-style-type: none"> ・ナースセンターサテライト福山の運営 ・県内市町へのナースセンター相談員による出張就業相談・再就業セミナー ・就業相談会 ・早期離職者に対するカフェの開催 ・ナースセンター情報管理システムによる個別カルテの管理及び届出者への研修等情報提供 ② 復職支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・看護技術に関する事前研修の実施 ・病院及び訪問看護 ST での実践研修の実施 ・シミュレーター技術研修 ・中小医療機関における再就業定着促進の支援 ③ 看護職員確保対策調査事業 <ul style="list-style-type: none"> ・看護職員の働く職場環境に関する実態調査 ・看護職員離職者実態調査 ④ 無料職業紹介相談事業（※県一般財源のみ） 					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・市町への出張就業相談及びセミナー（出張相談 11 市町以上、セミナー 7 市町以上で実施） ・早期離職者対象カフェ（8 市町以上で実施） ・就業相談会（広島市会場、福山市会場） ・情報管理システムへの情報の蓄積 ・事前研修（テーマ別の短時間研修を含む）、実践研修の実施 					
アウトカムとアウトプットの関連	届出制度に基づき、カフェや出張相談等により、離職者とナースセンターがつながりを持ち、適切な時期に再就業を促すことができる。また、復職支援事業により、長期離職者等の再就業への不安を軽減し、再就業の促進と、就業後の定着を図ることができる。					

事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 56,190	
		基金	国 (A)	(千円) 26,779	うち過年度残額 (千円) 0
			都道府県 (B)	(千円) 13,389	うち過年度残額 (千円) 0
			計 (A+B)	(千円) 40,168	うち過年度残額 (千円) 0
		その他 (C)		(千円) 16,022	
	基金充当額 (国費) における公民の別 (注 2)	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —	
		民	(千円) 26,779	うち過年度残額 (千円) —	
			うち受託事業等 (注3)	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考					

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	39
事業名	No	23	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 254,095千円	
	看護師等養成所運営費補助金					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	医療・介護需要の増加が見込まれる中、看護教育の充実を図ることにより、看護職員を安定的に確保していく必要がある。					
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 医療施設従事看護職員数：44,871人 (R7) ※厚生労働省「衛生行政報告例（隔年調査）」 ※参考：R11目標 45,650人 第8次広島県保健医療計画 				
事業の内容	看護教育の充実を図るため、看護師等養成所に対し運営費を補助する。					
アウトプット指標	看護師等養成所運営費の補助（県内13課程）					
アウトカムとアウトプットの関連	看護師等養成所の運営費を補助し、看護教育の充実を図ることにより、看護職員の安定的な確保につなげる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	/	
				254,095		
	基金	国 (A)		(千円)	うち過年度残額 (千円)	
				155,972	0	
		都道府県 (B)		(千円)	うち過年度残額 (千円)	
				77,986	0	
	計 (A+B)		(千円)	うち過年度残額 (千円)		
			233,958	0		
その他 (C)		(千円)	/			
		20,137				
基金充当額 (国費) における公民の別 (注2)		公	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
			—	—		
		民	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
			155,972	—		
			うち受託事業等 (注3)	うち過年度残額 (千円)		
			(千円)	(千円)		

			—	—
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	38
事業名	No	24	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 50,251千円
	看護職員キャリア支援事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	広島県				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	<p>新人看護職員は、養成所で学んだ知識と臨床の場で求められる高い実践能力とのギャップによりリアリティショックの問題に悩みがちであり、適切なフォローがなされないと、知識や技術の問題を抱えたまま早期離職につながりやすい。</p> <p>新人期以降も含めた看護職員の看護教育とキャリア形成を総合的に促進し、看護の質の向上と早期離職防止を図る必要がある。</p>				
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 医療施設従事看護職員数：44,871人 (R7) ※厚生労働省「衛生行政報告例(隔年調査)」 ※参考：R11目標 45,650人 第8次広島県保健医療計画 離職率：9.9%より下回る (R7) 			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 新人看護職員研修及び他施設からの受入研修実施病院への補助 教育指導者研修の実施(対象：研修責任者、教育担当者、実地指導者) 集合研修の実施(対象：小規模病院の新人及び採用2～3年目の看護職員) 看護職員キャリア支援ワーキンググループの開催 				
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 新人看護職員研修+受入研修実施病院への補助(70施設以上) 教育指導者研修の実施(研修責任者1回：40人、教育担当者2回：75人、実地指導者2回：75人実施) 集合研修の実施(新人ナース研修 延べ350人、フォローアップ 延べ100人、新人助産師研修 延べ80人) 看護職員キャリア支援ワーキンググループの開催(年1回) 				
アウトカムとアウトプットの関連	新人研修体制を拡充することで、新人看護職員の実践能力が向上し、早期離職を防止するため、医療施設従事看護職員数の確保につながる。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	うち過年度残額 (千円)
				50,251	
	基金	国(A)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
		都道府県		33,501	13,331
					うち過年度残額

		(B)	(千円)	(千円)
			16,750	6,666
		計(A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)
		50,251	19,997	
	その他(C)		(千円)	
		0		
	基金充当額(国費) における公民の別(注2)		公	(千円)
	141		—	
		民	(千円)	うち過年度残額 (千円)
			33,360	13,331
			うち受託事業等(注3)	うち過年度残額
			(千円)	(千円)
			5,180	—
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	50	
事業名	No	25	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 122,571千円		
	院内保育所支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域						
事業の実施主体	広島県						
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	医療・介護需要の増加が見込まれる中、看護職員を安定的に確保していく必要がある。						
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 医療施設従事看護職員数：44,871人 (R7) ※厚生労働省「衛生行政報告例(隔年調査) ※参考：R11目標 45,650人 第8次広島県保健医療計画 ・離職率：9.7%より下回る (R7) 					
事業の内容	看護職員の離職防止及び潜在看護職員の再就業促進のため、院内保育所の運営費及び新築等の費用を補助する。						
アウトプット指標	院内保育所運営費補助 49施設						
アウトカムとアウトプットの関連	院内保育所の運営費及び施設整備費を補助し、看護職員等の離職防止及び再就業を促進することで、看護職員の安定的確保につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)			
		(A+B+C)		122,571			
	基金	国(A)		(千円)	うち過年度残額 (千円)		
				73,245	0		
		都道府県(B)		(千円)	うち過年度残額 (千円)		
			計(A+B)		(千円)	うち過年度残額 (千円)	
					109,867	0	
		その他(C)		(千円)			
				12,704			
基金充当額(国費)における公民の別(注2)		公		(千円)	うち過年度残額 (千円)		
				—	—		
		民		(千円)	うち過年度残額 (千円)		
				73,245	—		

			うち受託事業等（注3） （千円） —	うち過年度残額 （千円） —
備考				

（注2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	40
事業名	No	26	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】	18,250千円
	看護学校教育環境整備事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	医療・介護需要の増加が見込まれる中、社会人向け看護学校入学説明会を開催し、地域の医療を担う看護職員を新たに確保していく必要がある。また、福山市は県境に位置し、他県に就業する者が比較的多いことから、就職セミナーの開催等により、看護職員を安定的に確保していく必要がある					
	アウトカム指標	・医療施設従事看護職員数：44,871人 (R7) ※厚生労働省「衛生行政報告例(隔年調査)」 ※参考：R11目標 45,650人 第8次広島県保健医療計画				
事業の内容	社会人向け入学説明会、看護学生向け就職セミナー					
アウトプット指標	入学説明会開催(2回)、就職セミナー開催(1回)					
アウトカムとアウトプットの関連	入学説明会、就職セミナーの開催により、看護職員の安定的確保につなげる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	/	
		(A+B+C)		18,250		
	基金	国(A)		(千円)	うち過年度残額	
				12,167	(千円)	
				0		
	都道府県(B)		(千円)	うち過年度残額		
			6,083	(千円)		
		0				
計(A+B)		(千円)	うち過年度残額			
		18,250	(千円)			
		0				
その他(C)		(千円)	/			
		0				
基金充当額(国費)		公	うち過年度残額			
における公民の別(注2)			(千円)	(千円)		
			—			
		8,634				
		民	うち過年度残額			
		(千円)	(千円)			
			—			
		3,533				

			うち受託事業等（注3） （千円） —	うち過年度残額 （千円） —
備考				

（注2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	49
事業名	No	27	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 8,034千円
	医療勤務環境改善支援センター事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	広島県				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	労務管理面のみならず、ワーク・ライフ・バランスなどの幅広い視点を視野に入れた医療機関の勤務環境の改善は、医療の質の向上、医療従事者の離職防止・定着など経営安定化の観点からも喫緊の課題となっている。				
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 県内医療施設従事医師数（人口10万人対） 267.1人（R2）→268.2人以上（R6） 医療施設従事看護職員数：44,842人（R6） ※厚生労働省「衛生行政報告例（隔年調査）」 ※参考：R11目標 45,650人 第8次広島県保健医療計画			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> センターの運営 講習会の案内、医業経営アドバイザーの派遣調整、勤務環境改善事例の提供及び関係機関とのハブ機能 セミナーの開催 勤務環境改善に係る取組事例の講演、計画づくり演習等 医業経営アドバイザーの派遣 勤務環境改善事例や計画策定済病院の取組状況の紹介、補助金・診療報酬加算など、計画策定のアドバイス 上記の取組を通じた医師の働き方改革の推進支援 				
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> セミナー参加医療機関数（累計） 60医療機関 訪問支援医療機関数（累計） 60医療機関 				
アウトカムとアウトプットの関連	医療機関における医師の働き方改革の推進を軸として勤務環境の改善を促し、医療従事者の離職防止や定着促進、医療安全の確保等を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	
		(A+B+C)		8,034	
	基金	国(A)		(千円)	うち過年度残額 (千円)
都道府県(B)		(千円)	0		
				(千円)	うち過年度残額 (千円)
				2,564	0

		計 (A+B)	(千円) 7,693	うち過年度残額 (千円) 0
		その他 (C)	(千円) 341	
	基金充当額 (国費) における公民の別 (注 2)	公	(千円) 2,649	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 2,480	うち過年度残額 (千円) —
		うち受託事業等 (注3)	(千円) 2,480	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	43・46
事業名	No	28	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 8,031千円
	看護師勤務環境改善・宿舎整備事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	広島県				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	医療・介護需要の増加が見込まれる中、看護職員が働きやすい勤務環境を整え離職防止を図る必要がある。				
アウトカム指標	<p>・医療施設従事看護職員数：44,871人（R7）</p> <p>※厚生労働省「衛生行政報告例（隔年調査）</p> <p>※参考：R11目標 45,650人 第8次広島県保健医療計画</p>				
事業の内容	看護職員の離職防止のため、看護職員が働きやすい合理的な病棟づくりなど勤務環境改善整備費用を補助する。				
アウトプット指標	看護師勤務環境改善施設整備費の補助（県内1医療施設）				
アウトカムとアウトプットの関連	看護師勤務環境改善施設整備費を補助し、看護職員の離職防止を促進することで、看護職員の安定的確保につなげる。				
事業に要する費用の額	金額		総事業費 (A+B+C)	(千円) 8,031	
	基金	国(A)	(千円) 5,354	うち過年度残額 (千円) 0	
		都道府県 (B)	(千円) 2,677	うち過年度残額 (千円) 0	
		計(A+B)	(千円) 8,031	うち過年度残額 (千円) 0	
			その他(C)	(千円) 0	
	基金充当額(国費) における公民の別(注2)		公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
			民	(千円) 5,354	うち過年度残額 (千円) —

			うち受託事業等（注3） （千円） —	うち過年度残額 （千円） —
備考				

（注2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	—
事業名	No	29	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,879千円
	高度リハビリテーション人材育成事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	広島大学				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	リハビリテーションの必要性の増大への対応及び回復期病床への転換の促進のため、リハビリテーション人材の資質向上が求められている。				
アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 高度医療リハビリテーション専門職人材育成ガイドラインの見直し (R7) 指導者養成プログラムの見直し (R7) 人材育成拠点病院施設数 2施設 (R7) (参考) 認定指導者数 (理学療法士・作業療法士・言語聴覚士) 0人 (R6) →230人 (R11) 人材育成拠点病院施設数 0施設 (R6) →12施設 (R11) リハビリテーション支援体制参加施設数 0施設 (R6) →100施設 (R11) 				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 広島県高度医療リハビリテーション人材育成センターの設置 広島大学病院内に広島県医療リハビリテーション人材育成センターを設置し、リハビリテーションに係る人材育成やデータベース構築等を行う。 広島県医療リハビリテーション支援体制の構築 リハビリテーション支援に関するニーズ調査・技術支援・研修会を開催する。 				
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 専門職人材育成ガイドライン見直しのための会議開催 5回 指導者育成プログラム見直しのための会議開催 5回 リハビリテーション支援に関する研修会 5回 				
アウトカムとアウトプットの関連	<ul style="list-style-type: none"> 認定指導者の育成プログラムを作成し、これに基づいて指導者を育成する。 リハビリテーション支援の研修会により、参加施設が増加する。 				
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	
		(A+B+C)		4,879	
	基金	国 (A)		(千円)	うち過年度残額 (千円)

				3,066	0
			都道府県 (B)	(千円) 1,533	うち過年度残額 (千円) 0
			計(A+B)	(千円) 4,599	うち過年度残額 (千円) 0
			その他(C)	(千円) 280	
	基金充当額(国費) における公民の別(注 2)	公		(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
			民	(千円) 3,066	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等(注3)	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
	備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	21, 33
事業名	No	30	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4, 413 千円
	歯科衛生士就業継続等支援事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	広島県				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	<p>歯科保健対策の推進にあたっては、歯科予防処置や歯科保健指導を担う歯科衛生士の役割が重要となってくる。</p> <p>これまでの歯科衛生士の養成に向けた取組により、本県の就業歯科衛生士数は増加傾向にあるが、20歳代や40歳代の離職傾向もあることなどから潜在歯科衛生士数が増加していると考えられる。</p> <p>復職や就業継続を希望する（潜在）歯科衛生士の就労促進を図ることにより就業歯科衛生士を確保する必要がある。</p>				
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の就業歯科衛生士数の維持 4, 051 人 (R4) → 現状値以上 (R7) 厚生労働省 衛生行政報告例（就業医療関係者）による 			
事業の内容	復職支援と離職防止に向けた就業相談窓口の設置と復職と就業継続に向けた研修の実施、人材育成指導やキャリアアップに向けた研修の実施				
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の利用者 60 名 ・復職・就業継続支援研修会参加者 90 名 ・人材育成教育担当研修会参加者 90 名 				
アウトカムとアウトプットの関連	復職や就業継続を希望する歯科衛生士に対して相談窓口や研修を設けることで、潜在歯科衛生士の確保を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	
		(A+B+C)		4, 413	
	基金	国 (A)		(千円)	うち過年度残額 (千円)
		都道府県 (B)		(千円)	0
		計 (A+B)		(千円)	0
その他 (C)		(千円)	0		

	基金充当額（国費） における公民の別（注 2）	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 2,942	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等（注3） (千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考				

（注2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	— その他 21
事業名	No	31	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 7,809 千円	
	薬剤師確保事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	病院薬剤師や在宅医療に参加する薬局の地域偏在が指摘されており、病院間の薬剤師の出向や薬局薬剤師の病院研修の受入れの取組を推進する体制を構築し、薬剤師の地域偏在の解消を通じて、医薬品提供体制の確立を図る必要がある。					
	アウトカム指標	薬剤師確保対策により確保された病院薬剤師数 令和7年度 12人				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コントロールタワー運営事業 病院や薬局の要望をマッチングし、薬局・病院間の薬剤師出向や研修実施を促進するコントロールタワーの運営補助 ・薬剤師出向モデル事業 薬剤師が不足している病院への出向 ・薬剤師確保の調査検討事業 事業の調査結果分析 					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチング実施評価協議会の開催(3回) ・地域の機関病院から薬剤師が不足している病院への薬剤師の出向(1名×3病院、3か月程度) ・調査検討のための協議会(3回) 					
アウトカムとアウトプットの関連	知識ある薬剤師が出向することで、出向先病院で病棟薬剤師業務を推進し、魅力ある環境づくりを図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)		
				7,809		
	基金	国(A)		(千円)	うち過年度残額 (千円)	
				5,206	1,144	
都道府県(B)		(千円)	うち過年度残額 (千円)			
		2,603	572			
		計(A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
		7,809	1,716			

	その他 (C)	(千円)		
		0		
	基金充当額 (国費) における公民の別 (注 2)	公	(千円)	うち過年度残額 (千円)
		民	(千円)	うち過年度残額 (千円)
	5,206	1,144		
	うち受託事業等 (注3)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
		—	—	
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

(1) 事業の内容等

事業の区分	6. 勤務医の働き方改革の推進に関する事業			標準事業例	—
事業名	No	32	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 271,609千円
	勤務医の働き方改革推進事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域				
事業の実施主体	広島県				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	医師の時間外・休日労働時間の上限規制等に対応し、医師の健康を守るとともに、安全で質の高い地域医療を提供するため、医師の労働時間短縮を進める必要がある。				
	アウトカム指標	特定労務管理対象機関における年間の時間外・休日労働時間が960時間超の医師数の減少 79人(R6実績)⇒40人(R7目標)			
事業の内容	・地域医療勤務環境改善体制整備(特別)事業 勤務医の労働時間短縮の取組のため、当直時の勤務負担の軽減やタスクシフト/シェアを行う医療機関への支援				
アウトプット指標	・タスクシフト/シェア実施件数の増加 ・ICTを活用した労働時間短縮の取組の実施件数の増加(1件以上)				
アウトカムとアウトプットの関連	特定労務管理対象機関に対し、タスクシフト/シェアの実施を支援することにより、勤務医の労働時間を短縮し、医師の働き方改革の推進を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	
				271,609	
	基金	国(A)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
				181,073	76,039
		都道府県(B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			90,536	38,019	
計(A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)			
		271,609	114,058		
その他(C)		(千円)			
		0			
基金充当額(国費) における公民の別(注2)		公	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			181,073	—	

		民	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等(注3) (千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

【介護分】

3. 計画に基づき実施する事業

(事業区分3：介護施設等の整備に関する事業)

(1) 事業の内容等

都道府県

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業																													
事業名	【No.1 (介護分)】 広島県介護施設等整備事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,195,904 千円																												
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域																													
事業の実施主体	市町・民間事業者																													
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日																													
背景にある医療・介護ニーズ	<p>介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。</p> <p>令和7年度においては、第9期介護保険支援計画等に位置づけている地域密着型サービス施設等の整備を行う。</p>																													
アウトカム指標	地域密着型サービス整備量 23,409人																													
事業の内容	<p>①地域密着型サービス施設等の整備等に対する助成を行う。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">整備予定施設等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域密着型特別養護老人ホーム及び併設ショート</td> <td style="text-align: right;">1カ所</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td style="text-align: right;">1カ所</td> </tr> <tr> <td>看護小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td style="text-align: right;">2カ所</td> </tr> <tr> <td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護</td> <td style="text-align: right;">3カ所</td> </tr> <tr> <td>認知症高齢者グループホーム</td> <td style="text-align: right;">6カ所</td> </tr> </tbody> </table> <p>②介護施設等の開設・設置に必要な準備経費等に対して支援を行う。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">整備予定施設等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域密着型特別養護老人ホーム及び併設ショート</td> <td style="text-align: right;">39床</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム及び併設ショート</td> <td style="text-align: right;">80床</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td style="text-align: right;">6床</td> </tr> <tr> <td>看護小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td style="text-align: right;">15床</td> </tr> <tr> <td>認知症高齢者グループホーム</td> <td style="text-align: right;">162床</td> </tr> <tr> <td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護</td> <td style="text-align: right;">6カ所</td> </tr> <tr> <td>大規模修繕に伏せて行う介護ロボット・ICT導入</td> <td style="text-align: right;">5カ所</td> </tr> </tbody> </table>		整備予定施設等		地域密着型特別養護老人ホーム及び併設ショート	1カ所	小規模多機能型居宅介護事業所	1カ所	看護小規模多機能型居宅介護事業所	2カ所	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3カ所	認知症高齢者グループホーム	6カ所	整備予定施設等		地域密着型特別養護老人ホーム及び併設ショート	39床	特別養護老人ホーム及び併設ショート	80床	小規模多機能型居宅介護事業所	6床	看護小規模多機能型居宅介護事業所	15床	認知症高齢者グループホーム	162床	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	6カ所	大規模修繕に伏せて行う介護ロボット・ICT導入	5カ所
整備予定施設等																														
地域密着型特別養護老人ホーム及び併設ショート	1カ所																													
小規模多機能型居宅介護事業所	1カ所																													
看護小規模多機能型居宅介護事業所	2カ所																													
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3カ所																													
認知症高齢者グループホーム	6カ所																													
整備予定施設等																														
地域密着型特別養護老人ホーム及び併設ショート	39床																													
特別養護老人ホーム及び併設ショート	80床																													
小規模多機能型居宅介護事業所	6床																													
看護小規模多機能型居宅介護事業所	15床																													
認知症高齢者グループホーム	162床																													
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	6カ所																													
大規模修繕に伏せて行う介護ロボット・ICT導入	5カ所																													

	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">介護予防拠点における防災意識啓発の取組</td> <td style="text-align: right;">50 カ所</td> </tr> </table> <p>③新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、介護施設等への簡易陰圧装置の設置、ゾーニング環境等の整備を行う。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">整備予定施設等</td> </tr> <tr> <td>簡易陰圧装置設置</td> <td style="text-align: right;">1 カ所 4 台</td> </tr> <tr> <td>ゾーニング環境等の整備</td> <td style="text-align: right;">2 カ所</td> </tr> </table> <p>④介護従事者の働く環境を整備するため、介護施設等に勤務する職員の利用する宿舍整備の支援を行う。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">整備予定施設等</td> </tr> <tr> <td>宿舍整備</td> <td style="text-align: right;">2 カ所</td> </tr> </table>	介護予防拠点における防災意識啓発の取組	50 カ所	整備予定施設等		簡易陰圧装置設置	1 カ所 4 台	ゾーニング環境等の整備	2 カ所	整備予定施設等		宿舍整備	2 カ所
介護予防拠点における防災意識啓発の取組	50 カ所												
整備予定施設等													
簡易陰圧装置設置	1 カ所 4 台												
ゾーニング環境等の整備	2 カ所												
整備予定施設等													
宿舍整備	2 カ所												
<p>アウトプット指標</p>	<p>地域包括ケアシステムの構築に向けて、第9期介護保険事業支援計画等において予定している地域密着型サービス施設等の整備を行う。</p> <p>【サービス事業量】</p> <p>○地域密着型サービス等整備等助成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型特別養護老人ホーム及び併設ショート 1 カ所 ・小規模多機能型居宅介護事業所 1 カ所 ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 2 カ所 ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 3 カ所 ・認知症高齢者グループホーム 6 カ所 <p>○施設開設準備経費等支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型特別養護老人ホーム及び併設ショート 39 人 ・特別養護老人ホーム及び併設ショート 80 人 ・小規模多機能型居宅介護事業所 6 人 ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 15 人 ・認知症高齢者グループホーム 162 人 ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 6 カ所 ・大規模修繕に併せて行う介護ロボット・ICT 導入 5 カ所 ・介護予防拠点における防災意識啓発の取組 50 カ所 <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易陰圧装置設置 1 カ所 4 台 ・ゾーニング環境等の整備 2 カ所 <p>○介護職員の宿舍施設整備に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿舍整備 2 カ所 												
<p>アウトカムとアウトプットの関連</p>	<p>地域間のバランスや地域の実情を踏まえた施設サービスの計画的な整備を進めるとともに、住み慣れた地域において在宅での生活が継続できるよう、地域密着型サービスや居宅サービスを充実する。</p>												
<p>事業に要す</p>	<p>事業内容</p>	<p>総事業費</p>	<p>基金</p>	<p>その他</p>									

る費用の額		(A+B+C) (注1)	国 (A)	都道府県 (B)	(C) (注2)
①	地域密着型サービス施設等の整備	(千円) 583,320	(千円) 388,880	(千円) 194,440	(千円) 0
②	施設等の開設・設置に必要な準備経費	(千円) 507,155	(千円) 338,103	(千円) 169,052	(千円) 0
③	新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援	(千円) 19,106	(千円) 12,737	(千円) 6,369	(千円) 0
④	介護職員の宿舎施設整備	(千円) 86,323	(千円) 57,549	(千円) 28,774	(千円) 0
金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 1,195,904		
	基金	国 (A)	(千円) 797,269		うち過年度残額 (千円) 535,134
		都道府県 (B)	(千円) 398,635		うち過年度残額 (千円) 267,567
		計 (A+B)	(千円) 1,195,904		うち過年度残額 (千円) 802,701
	その他 (C)		(千円) 0		
基金充当額 (国費) における公民の別 (注3) (注4)	公	(千円) 0		うち過年度残額 (千円) 0	
	民	うち受託事業等 (千円) 797,269		うち過年度残額 (千円) 535,134	
備考					

(注1) 事業者が未定等のため、総事業費が不明の場合は、記載を要しない。

(注2) 事業者が未定で、事業者負担額が不明の場合は、記載を要しない。

(注3) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注4) 指定管理者制度の活用など設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

3. 計画に基づき実施する事業

(事業区分5：介護従事者の確保に関する事業)

(1) 事業の内容等

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業		
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」の拡大 (小項目) 地域における介護のしごと魅力発信事業		
事業名	【No.1 (介護分)】 福祉・介護現場のイメージ改善・理解促進事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 14,921千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域		
事業の実施主体	尾道市、東広島市、府中町、一般社団法人広島県介護福祉士会		
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
背景にある医療・介護ニーズ	福祉・介護の職場は、体力的にも精神的にもきつい、給与水準が低いなどのマイナスイメージがあり、敬遠されがちである。県内事業所等の就業環境改善や人材確保の取組等により、介護職員数は増加傾向にあるものの、介護関係職種における有効求人倍率は、依然として他産業と比べると高い水準となっており、人材不足が課題となっている。		
	アウトカム指標	県内の介護職員数 52,485人 (R7)	
事業の内容	福祉・介護イベントの開催 学校に向けた啓発活動 ・県内の小・中・高校生を対象に「介護の日」ポスターを募集 ・県内の学校(小・中・高・大)を訪問し、出前講座を実施		
アウトプット指標	福祉・介護イベントの開催(開催回数：各市町1回) ポスター募集(応募枚数900枚) 理解促進のための学校訪問・出前講座(実施校数150校)		
アウトカムとアウトプットの関連	福祉・介護職の本来のイメージを伝えることにより、人材の確保・育成・定着を図る。		
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 14,921
	基金	国(A)	(千円) 9,947
		都道府県(B)	(千円) 4,974
		計(A+B)	(千円) 14,921
			うち過年度残額 (千円) 0
			うち過年度残額 (千円) 0
			うち過年度残額 (千円) 0

			14,921	0
		その他 (C)	(千円) 0	
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別 (注1)	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 9,947	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等 (注2) (千円) 9,947	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業				
	(大項目) 基本整備 (中項目) 基盤整備 (小項目) 介護人材確保対策連携強化事業 (協議会設置等)				
事業名	【No.2 (介護分)】 福祉・介護人材のマッチング・基盤整備事業 (広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会設置)	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,067 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域				
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・2040 (令和22) 年には約10,000人の介護職員が不足すると推計されており、必要となる介護職員不足を着実に解消していく必要がある。 ・県域での協議・連携組織として「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」を設置し、人材確保・育成・定着に向けた取組推進を図る。 				
	アウトカム指標	県内の介護職員数 52,485 人 (R7)			
事業の内容	「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」を構成する関係機関・団体との連携により2部会(職場改善・生産性向上部会、マッチング・魅力発信・資質向上部会)を開催し、福祉・介護分野の安定的な確保・育成・定着に係る事業を展開する。				
アウトプット指標	協議会(年2回)、部会(年3回)				
アウトカムとアウトプットの関連	協議会及び部会を行うことで、県内の主要な23関係団体と協同し、介護人材確保施策に係る各事業の方向付けや取組方法を議論することにより効果的な事業実施につなげ、全市町に福祉・介護人材確保に係る連携組織を設置することで、福祉・介護人材の確保・育成・定着を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 5,067		
		基金	国(A)	(千円) 3,378	うち過年度残額 (千円) 0
			都道府県 (B)	(千円) 1,689	うち過年度残額 (千円) 0
			計(A+B)	(千円) 5,067	うち過年度残額 (千円) 0

	その他 (C)		(千円) 0	
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別 (注1)	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 3,378	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等 (注2) (千円) 3,378	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業			
	(大項目) 基本整備 (中項目) 基盤整備 (小項目) 市区町村介護人材確保プラットフォーム構築事業			
事業名	【No.3 (介護分)】 福祉・介護人材のマッチング・基盤整備事業 (市町単位地域人材確保推進体制整備事業)		【総事業費 (計画期間の総額)】 7,900 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域			
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会			
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日			
背景にある医療・介護ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・2040 (令和22) 年には約10,000人の介護職員が不足すると推計されており、必要となる介護職員不足を着実に解消していく必要がある。 ・県域での協議・連携組織として「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」を設置し、人材確保・育成・定着に向けた取組を推進しており、市町域での人材確保・育成についても、地域の関係団体による協議や連携の組織的な取組を推進させる必要がある。(23市町中20市町設置、3町未設置) 			
	アウトカム指標	県内の介護職員数 52,485 人 (R7)		
事業の内容	各地域の実情に応じた細やかな福祉・介護人材の安定的な確保・育成・定着につなげるよう市町域での協議会・連携組織の支援を行う。			
アウトプット指標	市町域での協議会・連携組織の支援 (地域会議3回、全体会議2回)			
アウトカムとアウトプットの 関連	全市町に福祉・介護人材確保に係る連携組織を設置することで、福祉・介護人材の確保・育成・定着を図る。			
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (千円)		
		(A+B+C)		
	基金	国 (A)	(千円)	うち過年度残額 (千円)
			5,267	0
		都道府県 (B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)
		2,633	0	
	計 (A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
	7,900	0		
	その他 (C)	(千円)		
		0		
	基金充当額	公	うち過年度残額	

	(国費)における公民の別(注1)		(千円) —	(千円) —
		民	(千円) 5,267	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等(注2) (千円) 5,267	うち過年度残額 (千円) —
備考				

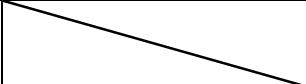
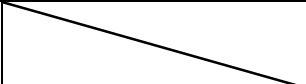
(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層 (若者・女性・高齢者) の参入促進事業 ハ 介護助手等普及推進事業					
事業名	【No.4 (介護分)】 福祉・介護人材のマッチング・基盤整備事業 (介護助手等普及推進事業)		【総事業費 (計画期間の総額)】 6,352 千円			
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域					
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会					
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	・2040 (令和22) 年には約10,000人の介護職員が不足すると推計されており、必要となる介護職員不足を着実に解消していく必要がある。					
	アウトカム指標	県内の介護職員数 52,485 人 (R7)				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉人材センターに「介護助手等普及推進員」を配置し、介護助手等希望者の掘り起こしを行うとともに、介護事業所への介護助手等の導入の働きかけを行う。 ・介護の周辺業務を担う介護助手等の人材を確保するため、職場体験及び研修を実施し、介護施設等とマッチングを行う。 					
アウトプット指標	研修受講者数 100 人					
アウトカムとアウトプットの 関連	介護の周辺業務を担う介護助手の導入を促進することにより、福祉・介護人材の確保・育成・定着を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (千円)				
		(A+B+C)			6,352	
		基金	国 (A)		(千円)	うち過年度残額 (千円) 0
			都道府県 (B)		(千円)	うち過年度残額 (千円) 0
			計 (A+B)		(千円)	うち過年度残額 (千円) 0
	その他 (C)		(千円)	0		
基金充当額 (国費) における公民	公	(千円)	—	うち過年度残額 (千円) —		

	の別（注1）	民	(千円)	うち過年度残額
			4,235	(千円) —
			うち受託事業等（注2）	うち過年度残額
			(千円)	(千円)
			4,235	—
備考				

（注1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注2）事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）事業区分の小項目については全て記載すること。（イヤロなども記載すること。）

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業				
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 潜在有資格者の再就業促進 (小項目) 潜在介護福祉士等の再就業促進事業				
事業名	【No.5 (介護分)】 福祉・介護人材のマッチング・基盤整備事業 (介護職場復帰を希望する介護福祉士の再就職支援)		【総事業費 (計画期間の総額)】 5,224 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域				
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・公益財団法人介護労働安定センター広島支部				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	・2040(令和22)年には約10,000人の介護職員が不足すると推計されており、必要となる介護職員不足を着実に解消していく必要がある。				
	アウトカム指標	県内の介護職員数 52,485 人 (R7)			
事業の内容	かつて介護職場を経験していた介護福祉士の掘り起しを行うとともに、再就職を促進させるためのセミナー開催及び職場体験を実施する。				
アウトプット指標	介護職場復帰を希望する介護福祉士の再就職支援 4回(120人)				
アウトカムとアウトプットの関連	介護福祉士の再就職の促進や新たな人材を確保マッチングすることにより、福祉・介護人材の確保・育成・定着を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	
		(A+B+C)		5,224	
	基金	国 (A)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			3,483	0	
		都道府県 (B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			1,741	0	
		計 (A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
		5,224	0		
	その他 (C)	(千円)			
		0			
	基金充当額 (国費)における公民の別(注1)	公	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			—	—	
		民	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			3,483	—	

			うち受託事業等（注2） （千円） 3,483	うち過年度残額 （千円） —
備考				

（注1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注2）事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）事業区分の小項目については全て記載すること。（イヤロなども記載すること。）

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業				
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 外国人介護人材研修支援事業				
事業名	【No.6 (介護分)】 福祉・介護人材のマッチング・基盤整備事業 (外国人介護人材確保・定着支援)		【総事業費 (計画期間の総額)】	4,329 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域				
事業の実施主体	広島県医療福祉人材協会				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	「技能実習制度」や「特定技能制度」等を活用し外国人介護人材を登用しようとする事業者が増加傾向にある。				
	アウトカム指標	県内の介護職員数 52,485 人 (R7)			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の外国人介護従事者及び指導者に対し、資質向上のための研修を実施。 ・関係団体等に外国人介護人材についての制度説明や受入に関するノウハウ等を説明するセミナーを実施。 ・介護福祉士の資格取得を希望する外国人介護人材に対し、各受入施設において、資格取得に向けた適切な学習支援が行われるよう指導者を養成し、施設へ派遣する。 				
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人介護人材確保・定着支援セミナー 2回 ・外国人介護職員・指導者合同資質向上研修 3回 ・外国人介護福祉士資格取得支援指導者養成研修事業 研修：2回、派遣：20回 				
アウトカムとアウトプットの 関連	外国人介護人材受入に係るノウハウの提供や、介護福祉士の資格取得支援等を行うことにより、介護人材の確保・定着を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 4,329	
		基金	国 (A)	(千円) 2,886	うち過年度残額 (千円) 0
	都道府県 (B)		(千円) 1,443	うち過年度残額 (千円) 0	
	計 (A+B)		(千円) 4,329	うち過年度残額 (千円) 0	
		その他 (C)		(千円) 0	
		基金充当額 (国費) に	公	(千円)	うち過年度残額 (千円)

	おける公民 の別（注1）		—	
		民	(千円) 2,886	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等（注2） (千円) 2,886	うち過年度残額 (千円) —
備考				

（注1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注2）事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）事業区分の小項目については全て記載すること。（イヤロなども記載すること。）

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業 イ 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業	
事業名	【No.7 (介護分)】 福祉・介護人材の資質向上支援事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 24,152 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	一般社団法人広島県介護福祉士会、一般社団法人広島県シルバーサービス振興会、広島県訪問介護事業所連絡協議会	
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	県内の介護事業所には無資格従事者が存在し、現場で指導を受けながら業務に従事しているが、知識や技術が身につけていないことへの不安や、職員による指導が異なる等により、就労意欲の低下や早期離職につながりやすい。 介護職員の離職率は、事業所が小規模となるほど高い傾向にあり、介護技術等の習得支援が重要である。	
	アウトカム指標	県内の介護職員数 52,485 人 (R7)
事業の内容	<p>○県標準マニュアルによる介護技術向上研修 施設・事業所における介護技術の均一化とレベルアップを図るため、新任職員、指導的職員を対象に事業所・施設内で実施</p> <p>○認知症高齢者虐待防止研修及び相談会 介護保険施設・事業所等の職員を対象に、認知症介護に関する研修を行い、介護職員からの相談にも対応</p> <p>○小規模事業所介護職員研修（新任基礎・中堅） 実務経験3年以内の新任介護職員を対象とした基礎研修（全2回）、中堅職員を対象とした介護技術専門研修（全2回）、マネジメント研修（全2回）を県内複数地域で実施</p> <p>○小規模事業所介護人材育成事業（出前研修支援） 小規模事業所の個別課題に応じて、講師を派遣し、小規模事業所の研修実施を支援</p> <p>○新任訪問介護員研修 県内の新任訪問介護員及び育成担当職員を対象に研修を実施（全4回）</p>	
アウトプット指標	<p>県標準マニュアルによる介護技術向上研修（実施回数 20 回） 認知症高齢者虐待防止研修及び相談会（実施回数 8 回） 小規模事業所 介護職員研修（新任基礎・中堅） （新任基礎 県内 6 会場、中堅 県内 4 会場） 小規模事業所 介護人材育成事業（出前研修支援）（回数 200 回） 新任訪問介護員研修（参加者 120 人）</p>	

アウトカムとアウトプットの関連	専門的な介護技術研修等を行うことにより、介護従事者のモチベーションアップと資質向上を図り、介護人材の定着につなげる。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 24,152	
		基金	国 (A)	(千円) 16,101	うち過年度残額 (千円) 0
			都道府県 (B)	(千円) 8,051	うち過年度残額 (千円) 0
			計 (A+B)	(千円) 24,152	うち過年度残額 (千円) 0
		その他 (C)		(千円) 0	
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別 (注1)	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —	
		民	(千円) 16,101	うち過年度残額 (千円) —	
			うち受託事業等 (注2)	(千円) 16,101	うち過年度残額 (千円) —
備考					

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業		
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修 ハ 介護支援専門員資質向上事業		
事業名	【No.8 (介護分)】 ケアマネジメント機能強化事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 22,897 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域		
事業の実施主体	広島県、一般社団法人広島県介護支援専門員協会		
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者の状況に応じた適切なケアマネジメントを提供するため、地域包括ケアを担う専門職として介護支援専門員の育成と、資質向上を図る。		
	アウトカム指標	アウトカム指標： 医療や介護が必要になっても安心して暮らし続けられると思う者の割合：R元年 55.6%→R7年 69%	
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○法定研修を担う、講師・ファシリテーター及び実習指導者を養成する。 ○施設特有の課題解決に向けた研修を開催。 ○有識者・研修実施機関・県で構成する研修向上委員会を設置し、法定研修や法定外研修の評価・分析を行う。 ○地域ブロック単位での多職種連携を促進するため、関係機関による事例検討会を開催する。 ○多職種の先進事例を学ぶシンポジウムを開催する。 ○適切なケアマネジメント手法の活用方法を習得するための実践研修を開催する。 		
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ○新規指導者養成・指導者フォローアップ研修 1回 ○実習指導者養成研修 1回 ○地域共生社会における介護支援専門員資質向上研修 3回 ○研修向上委員会 3回 ワーキンググループ会議 11回 ○地域ブロック単位での事例検討会 29ブロック×3回 ○先進事例を学ぶシンポジウムの開催 1回 ○適切なケアマネジメント手法の普及促進に向けた研修 4回 		
アウトカムとアウトプットの関連	介護支援専門員の質が向上することにより、自立支援を目指した適正なケアプランが提供でき、高齢者の重症化防止を図る。		
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 22,897
	基金	国 (A)	(千円) うち過年度残額 (千円)

		都道府県 (B)		14,343	14,343
				(千円) 7,172	うち過年度残額 (千円) 7,172
			計 (A+B)	(千円) 21,515	うち過年度残額 (千円) 21,515
		その他 (C)	(千円) 1,382		
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別 (注1)	公		(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
			民	(千円) 14,343	うち過年度残額 (千円) 14,343
			うち受託事業等 (注2)	(千円) 14,343	うち過年度残額 (千円) 14,343
	備考				

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業				
	(大項目) 資質向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築・推進に資する人材育成・資質向上事業				
事業名	【No.9 (介護分)】 薬剤師の在宅チーム医療連携事業		【総事業費 (計画期間の総額)】	5,004 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域				
事業の実施主体	公益社団法人広島県薬剤師会				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	増加する在宅医療のニーズに対応するため、在宅医療に参画し多職種連携ができる薬剤師の増加及び当該薬剤師による訪問薬剤管理指導の質的向上が求められる。				
	アウトカム指標	在宅医療の質的向上のための多職種連携研修を修了した薬剤師58人 (R7年度)			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○多職種連携推進の課題調査 薬局と介護職等との連携に関する課題の調査・検討 ○多職種連携研修等の研修 地域の薬局や介護職等を対象とした研修の実施 ○在宅薬学管理等の研修 災害対応も含めた高度な在宅医療に対応する研修の実施 				
アウトプット指標	課題調査の実施、研修開催				
アウトカムとアウトプットの関連	地域の薬局と介護職等の連携ができる薬剤師を増やすことで、在宅医療サービスの充実を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 5,004	
		基金	国 (A)	(千円) 3,336	うち過年度残額 (千円) 3,336
			都道府県 (B)	(千円) 1,668	うち過年度残額 (千円) 1,668
			計 (A+B)	(千円) 5,004	うち過年度残額 (千円) 5,004
		その他 (C)		(千円) 0	
		基金充当額 (国費) における公民	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —

	の別（注1）	民	(千円)	うち過年度残額
			3,336	(千円) 3,336
			うち受託事業等（注2）	うち過年度残額
			(千円)	(千円)
			3,336	3,336
備考				

（注1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注2）事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）事業区分の小項目については全て記載すること。（イヤロなども記載すること。）

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業		
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築・推進に資する人材育成・資質向上事業		
事業名	【No.10 (介護分)】 在宅歯科医療推進のための歯科医師・歯科衛生士の資質向上事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 13,522 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域		
事業の実施主体	一般社団法人広島県歯科医師会 一般社団法人広島県歯科衛生士会 国立大学法人広島大学		
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
背景にある医療・介護ニーズ	在宅の認知症高齢者や重度障害者が増加しているため、在宅歯科医療体制を確保する必要がある		
	アウトカム指標	アウトカム指標： 訪問口腔衛生指導を実施している診療所・病院数の増加 255 施設 (R4) ⇒370 施設 (R11)	
事業の内容	地域包括ケアシステムの構築に向け、住み慣れた地域に必要な医療・介護サービスが受けられるよう、在宅歯科医療提供体制等の更なる充実を目指し、それらを担うことのできる専門性を持った歯科医師・歯科衛生士を養成する。 ○認知症患者等の歯科保健医療サービス提供困難者に対応できるスペシャルニーズ歯科診療医等を養成するための研修を実施 ○要介護者等の口腔機能向上のため、口腔ケアや食支援を行うことができる歯科医師等を養成するための研修を実施 ○訪問歯科診療に対応できる歯科衛生士を確保・育成するための研修プログラムの検討を実施 ○在宅及び施設における口腔健康管理実践者養成プログラムの構築及び展開を実施		
アウトプット指標	○スペシャルニーズ歯科診療医等養成講座 (全8回) ○訪問歯科衛生士の人材育成研修受講者数(40人)、見学実習(20人) ○口腔健康管理実践者養成プログラム参加者数 (150人)		
アウトカムとアウトプットの関連	認知症高齢者等への在宅歯科医療の提供に必要な専門性を持った歯科医師・歯科衛生士を養成することで、在宅療養支援歯科診療所の増加に繋げる。		
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 13,522
	基金	国 (A)	(千円) うち過年度残額 (千円)

		都道府県 (B)		9,015	9,015
				(千円)	うち過年度残額 (千円)
				4,507	4,507
		計 (A+B)		(千円)	うち過年度残額 (千円)
				13,522	13,522
		その他 (C)		(千円)	
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別 (注1)	公		(千円)	うち過年度残額 (千円)
				—	—
民			(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			9,015	9,015	
		うち受託事業等 (注2)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			—	—	
備考					

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業		
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 20 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業等 イ 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業		
事業名	【No.11 (介護分)】 認知症医療・介護研修事業 (認知症ケアに携わる人材育成)	【総事業費 (計画期間の総額)】 12,979 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域		
事業の実施主体	広島県、広島市		
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
背景にある医療・介護ニーズ	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「共生社会」の実現を図る。		
	アウトカム指標	医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 (R7年度目標: 69%)	
事業の内容	○医療従事者対象 ① 認知症サポート医フォローアップ研修 ② 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修 ③ かかりつけ医認知症対応力向上研修 ④ 歯科医師認知症対応力向上研修 ⑤ 薬剤師認知症対応力向上研修 ⑥ 看護師認知症対応力向上研修 ⑦ 病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修 ○介護従事者対象 ① 認知症介護指導者フォローアップ研修 ② 認知症介護基礎研修 ③ 認知症対応型サービス事業管理者研修 ④ 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 ⑤ 認知症対応型サービス事業開設者研修 ○市町対象 ① 認知症初期集中支援チーム員研修 ② 認知症地域支援推進員研修		
アウトプット指標	認知症介護基礎研修修了者数 (累計) 現状 (目標設定時 (R元年度末)): 1,741人 → R7年度: 3,840人		
アウトカムとアウトプットの 関連	認知症に対して適切に対応できる医療・介護関係者の育成及び質の向上等により、医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合の増加を図る。		
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 12,979
		基金 国 (A)	
			うち過年度残額

			(千円) 8,652	(千円) 8,652
		都道府県 (B)	(千円) 4,327	うち過年度残額 (千円) 4,327
		計(A+B)	(千円) 12,979	うち過年度残額 (千円) 12,979
		その他(C)	(千円) 0	
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別(注1)	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 8,652	うち過年度残額 (千円) 8,652
			うち受託事業等(注2) (千円) 8,652	うち過年度残額 (千円) 8,652
備考				

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業				
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 20 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業等 ロ チームオレンジコーディネーター研修等事業				
事業名	【No.12 (介護分)】 認知症医療・介護研修事業 (チームオレンジコーディネーター)		【総事業費 (計画期間の総額)】	764 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域				
事業の実施主体	広島県				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「共生社会」の実現を図る。				
	アウトカム指標	医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 (R7年度目標: 69%)			
事業の内容	チームオレンジの整備・活動を推進するために市町が配置するコーディネーターやチームメンバー等に対して、必要な知識や技術を習得させるための研修を実施する。				
アウトプット指標	チームオレンジ設置市町数 現状 (目標設定時 (R3年度末)): 3 → R7年度: 23 (全市町)				
アウトカムとアウトプットの 関連	チームオレンジによる声掛けや意見交換を実施し、地域とのつながりが保たれることにより、医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合の向上を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 764	—
		基金	国 (A)	(千円) 509	
	都道府県 (B)		(千円) 255	うち過年度残額 (千円) 255	
	計 (A+B)		(千円) 764	うち過年度残額 (千円) 764	
		その他 (C)		(千円) 0	—
	基金充当額 (国費) における公民	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —	

	の別（注1）	民	(千円)	うち過年度残額
			509	(千円) 509
			うち受託事業等（注2）	うち過年度残額
			(千円)	(千円)
			509	509
備考				

（注1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注2）事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）事業区分の小項目については全て記載すること。（イヤロなども記載すること。）

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業		
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 21 地域における認知症施策の底上げ・充実のための重点支援事業		
事業名	【No.13 (介護分)】 認知症地域連携促進事業	【総事業費 (計画期間の総額)】	857 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域		
事業の実施主体	広島県、広島県医師会		
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
背景にある医療・介護ニーズ	認知症状に応じた適切な医療・介護サービスの提供や、症状の変化等への早期対応につなげる地域支援体制（認知症地域連携パス）の構築等を進めるため、医療・介護関係機関が患者情報を共有する連携ツール（ひろしまオレンジパスポート）の県内普及を図る。		
	アウトカム指標	医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合（R7年度目標：69%）	
事業の内容	認知症施策推進基本計画の「5. 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等（2）保健医療福祉の有機的な連携の確保」に掲げるように、市町、医療・介護関係団体の有機的な連携の強化を推進するため、認知症地域連携パスの計画的な利用地域拡大及び運用円滑化を図る。 ○連携ツールの導入・利用拡大 ・導入説明会・研修会、関係者会議等 ・利用環境の改善（連携パスシステムの改修等） ○連携ツールの普及・啓発 ・利用促進、周知活動の実施		
アウトプット指標	オレンジパスポートの発行医療機関数 現状（目標設定時（R元年度末））：37機関→R7年度：42機関		
アウトカムとアウトプットの関連	オレンジパスポートの発行医療機関数を拡大し、医療・介護関係機関が連携ツールを活用することにより、地域における医療介護連携を進め、循環型の仕組みを構築し、医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合の増加を図る。		
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 857
		基金	国(A) (千円) 571
		都道府県 (B)	(千円)

		計 (A+B)		286	286
			(千円)		うち過年度残額 (千円)
	その他 (C)		857	857	
		(千円)	0		
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別 (注1)	公		(千円)	うち過年度残額 (千円)
			109	109	
民			(千円)	うち過年度残額 (千円)	
	462	462			
		うち受託事業等 (注2)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
		462	462		
備考					

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築・推進に資する人材育成・資質向上事業	
事業名	【No.14 (介護分)】 広島県地域包括ケアシステム強化推進事業 (ケアシステム構築に資する人材育成)	【総事業費 (計画期間の総額)】 101,522 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県、広島県地域包括ケア推進センター	
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展等により、医療、介護、予防、住まい、生活支援などのサービスを包括的に提供する地域包括ケアシステムを、更に強化していくことが求められる。	
アウトカム指標	医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 (R7年度目標: 69%)	
事業の内容	<p>①介護予防の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の立上げ支援 <ul style="list-style-type: none"> ※ 市町、地域包括支援センター等へアドバイザーを派遣し、通いの場の立ち上げ支援を行うことによりセンター職員の資質向上を図る。 ・地域リハビリ連携促進 (専門職派遣、リハ職研修、広域支援センター等研修) <p>【市町補助金対象事業 (1,517 千円)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「通いの場」交流大会・リーダー交流会推進事業 市町、地域包括支援センターが実施する交流会の支援 ※ 市町、地域包括支援センターを支援する専門職の養成を行うことでセンター職員の資質向上を図る。 ・介護予防普及展開事業 (専門職派遣、研修) <ul style="list-style-type: none"> ※ 市町、地域包括支援センターが実施する自立支援型ケアマネジメントについて、専門職派遣、研修等の支援を行うことで資質向上を図る。 <p>②生活支援体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー派遣 ・コーディネーター養成・育成・ワーキング会議 ・情報交換会の開催 <p>③自立支援型ケアマネジメントの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援型ケアマネジメント研修の開催 <ul style="list-style-type: none"> ※ 市町等関係職員の共通認識の醸成及び高齢者本人の能力と意欲を引き出すスキルの修得に向け、マニュアルを活 	

	<p>用した研修を実施。</p> <p>④医療介護連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ACP普及促進（専門職を対象とした研修） ・在宅医療多職種ノウハウ連携研修 <p>⑤地域包括ケアシステムの質向上を図るための分析調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民の地域包括ケアに係る安心感調査・市町支援・不安解消施策の実施 <p>※ 市町、地域包括支援センターの持っている課題の分析及び地域診断による助言等の支援</p> <p>⑥専門相談、普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア推進に関する相談・認知症介護相談・高齢者虐待相談・弁護士等派遣・高齢者虐待防止研修 <p>※ 市町、地域包括支援センターからの個別事案等の相談、弁護士等専門職の派遣、研修の実施することで資質向上を図る。</p> <p>⑦移動支援勉強会（市町職員、地域包括支援センター職員等）</p> <p>⑧介護サービス基盤安定化に向けた市町支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町、地域包括支援センターへのアドバイザー派遣・市町セミナー・意見交換会 <p>※ 介護需要や労働力の縮小に対する喫緊の課題を抱えている市町に対して、基盤安定化に向けた分析、検討の支援を行い、その支援事例を用いて市町、地域包括支援センター職員に対しセミナーを実施</p>				
アウトプット指標	研修会等の開催、専門職の派遣等				
アウトカムとアウトプットの関連	本事業の取組により、地域包括支援センター職員等の資質向上が図られるとともに、PDCAを回すためのアウトカム指標に基づく自己評価等に取り組むことにより、地域におけるネットワーク等の構築がされ、地域包括ケアシステムが強化されることにより、県民の地域包括ケアに関する安心感の向上を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 101,522	
		基金	国 (A)	(千円) 67,266	うち過年度残額 (千円) 3,754
			都道府県 (B)	(千円) 33,633	うち過年度残額 (千円) 1,877
			計 (A+B)	(千円) 100,899	うち過年度残額 (千円) 5,631
		その他 (C)		(千円) 623	
		基金充当額	公		うち過年度残額

	(国費) における公民の別 (注1)		(千円) 67,266	(千円) 3,754
		民	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等 (注2) (千円) —	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業				
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 権利擁護人材育成事業 ロ 介護相談員育成に係る研修支援事業				
事業名	【No.15 (介護分)】 広島県地域包括ケアシステム強化推進事業 (介護相談員育成に係る研修)		【総事業費 (計画期間の総額)】 785 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域				
事業の実施主体	広島市、呉市				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者の進展等により、医療、介護、予防、住まい、生活支援などのサービスを包括的に提供する地域包括システムをさらに強化していくことが求められる。				
	アウトカム指標	医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合。			
事業の内容	公益団体（介護相談・地域づくり連絡会（NPO 地域ケア政策ネットワーク※））が実施する研修費用（旅費・受講料等）を助成する。				
アウトプット指標	研修会の開催				
アウトカムとアウトプットの関連	本事業の取り組みにより、介護相談員の増加・資質向上等により、医療介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思うものの割合の増加を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 785	
		基金	国 (A)	(千円) 523	うち過年度残額 (千円) 523
	都道府県 (B)		(千円) 262	うち過年度残額 (千円) 262	
	計 (A+B)		(千円) 785	うち過年度残額 (千円) 785	
		その他 (C)		(千円) 0	
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別 (注1)	公	(千円) 523	うち過年度残額 (千円) 523	
民		(千円)	うち過年度残額 (千円)		

			—	—
			うち受託事業等（注2） （千円）	うち過年度残額 （千円）
			—	—
備考				

（注1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注2）事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）事業区分の小項目については全て記載すること。（イヤロなども記載すること。）

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業		
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築に資する人材育成・資質向上事業		
事業名	【No.16 (介護分)】 訪問看護の機能強化事業		【総事業費 (計画期間の総額)】 9,241 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域		
事業の実施主体	広島県看護協会, 広島県訪問看護ステーション協議会		
事業の期間	令和7年4月1日～8年3月31日		
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる訪問看護体制を構築する必要がある。		
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護事業所に所属する特定行為研修修了者数 10人 ・訪問看護事業所に所属する認定看護師数 22人 	
事業の内容	<p>○在宅医療と在宅介護の両方の中心的役割を担う訪問看護ステーションの質の向上を図るため、訪問看護の機能強化事業検討委員会を開催するほか、訪問看護師の養成研修・専門研修、看護師相互交流派遣研修、訪問看護出向事業を実施する。</p> <p>○在宅医療と在宅介護の両方の中心的役割を担う訪問看護ステーションの人材の不足解消を図るため、プラチナナース（定年退職前後の看護職）を対象に訪問看護に対する就業意欲を高める研修会を開催する。また、新卒等訪問看護師の離職防止のため、指導者育成研修を実施する。</p> <p>○訪問看護サービスの技術面・経営面でのスキルアップを図るため、管理者向けマネジメント強化研修のほか、専門・認定看護師による相談会を開催する。</p>		
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問看護師の養成研修・専門研修 ○訪問看護ステーション管理者対象マネジメント力向上研修 ○看護師相互交流派遣研修の実施 ○プラチナナース研修の実施 ○二次保健医療圏域ごとの看護技術研修の開催 ○専門・認定看護師による相談会・講習会の開催 ○中核病院等から訪問看護ステーションへの出向の実施 		
アウトカムとアウトプットの関連	事業所の機能強化及び人材の技能向上により、持続可能なサービス提供体制の構築を図る。		
事業に要する費用の額	金額	総事業費	(千円)
		(A+B+C)	9,241
	基金	国 (A)	(千円)
			うち過年度残額 (千円)

			6,161	6,161
		都道府県 (B)	(千円) 3,080	うち過年度残額 (千円) 3,080
		計(A+B)	(千円) 9,241	うち過年度残額 (千円) 9,241
		その他(C)	(千円) 0	
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別(注1)	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 6,161	うち過年度残額 (千円) 6,161
			うち受託事業等(注2)	(千円) —
備考				

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業		
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材育成 (小項目) 権利擁護人材育成事業 イ 認知症高齢者権利擁護人材育成事業		
事業名	【No.17 (介護分)】 権利擁護人材の担い手養成・確保事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 36,791 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域		
事業の実施主体	広島県社会福祉協議会、広島市、福山市、三次市、廿日市市		
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢化、核家族化等の社会状況の変化によって、高齢者の独居世帯が増加している。そのような状況下で認知症高齢者等の権利擁護に寄与する市民後見人のニーズが増加すると見込まれる。		
	アウトカム指標	医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 (R7年度目標: 69%)	
事業の内容	○生活支援員等養成等事業 《広島県社会福祉協議会》 ・権利擁護普及・啓発講座の実施 (4会場) ・生活支援員・法人後見支援員等養成研修 (3日×2会場) ・生活支援員フォローアップ研修 (2回×22会場) ・関係者会議の実施 (3回) ・法人後見担当者会議の実施 (2回) ・法人後見未実施の市町社協の立ち上げ支援 (訪問協議等) (2か所) ・法人後見事業実施の市町社協への個別支援 ○市民後見人養成事業 《広島市・福山市・三次市・廿日市市》 ・市民後見人養成研修の実施 (広島市、福山市) ・養成研修修了者のフォローアップ研修 (広島市、福山市、三次市、廿日市市) ・成年後見制度及び市民後見人に関する普及啓発講演会 (広島市、福山市、三次市、廿日市市) 等		
アウトプット指標	○生活支援員養成等研修の受講者数 (400人) ○市民後見人候補者の養成数 (20人)		
アウトカムとアウトプットの関連	市民後見人の養成により、認知症高齢者等が在宅で安心して生活が送れるようにサポート体制を整え、医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合の向上を図る。		
事業に要する費用の額	金	総事業費	(千円)

	額		(A+B+C)	36,791	
	基金	国 (A)		(千円)	うち過年度残額 (千円)
				24,528	24,528
		都道府県 (B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			12,263	12,263	
		計 (A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			36,791	36,791	
		その他 (C)	(千円)		
			0		
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別 (注1)	公		(千円)	うち過年度残額 (千円)
			—	—	
民			(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			24,528	24,528	
	うち受託事業等 (注2)	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
		24,528	24,528		
備考					

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業		
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」の拡大 (小項目) 地域における介護のしごと魅力発信事業		
事業名	【No.18 (介護分)】 看護教員・指導者育成事業	【総事業費 (計画期間の総額)】	4,844 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域		
事業の実施主体	広島県		
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
背景にある医療・介護ニーズ	今後見込まれる、介護ニーズ、医療・介護連携強化のニーズの増加に対応するには、質の高い看護職員の養成により、魅力的な仕事として、看護職員の確保を維持していくことが必要である。		
	アウトカム指標	介護・医療施設従事看護職員数：44,871人 (R7) ※厚生労働省「衛生行政報告例 (隔年調査)」 ※参考：R11 目標 45,650人 第8次広島県保健医療計画	
事業の内容	<p>訪問看護ステーション、老人保健施設等における実習指導者を養成するなど、介護分野における看護人材及び介護と医療の連携を図ることのできるスキルを持った人材の確保・養成を図るための指導者育成を図る。</p> <p>○専任教員・実習指導者継続研修 県内看護教員の養成能力の向上や実習指導者の指導力向上を目的とした研修会を実施し、教育実践力の向上を図る。</p> <p>○実習指導者養成講習会の開催 看護学生の実習受入病院の指導者に必要な知識・技術を修得させる。</p> <p>○特定分野実習指導者講習会の開催 看護基礎教育における施設等での臨地実習の指導者に必要な知識・技術を修得させる。</p>		
アウトプット指標	<p>○専任教員・実習指導者継続研修 成長段階別研修3回、トピックス研修2回、実践力向上研修1回開催</p> <p>○実習指導者養成講習会1回開催</p> <p>○特定分野実習指導者講習会1回開催</p>		
アウトカムとアウトプットの 関連	看護教員・指導者の養成の充実と質の向上を図ることで、訪問看護をはじめとする、介護分野や介護と医療の連携に関わる分野で働く質の高い看護職員の養成と確保を図る。		
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 4,844

	基金	国 (A)	(千円) 3,229	うち過年度残額 (千円) 3,229
		都道府県 (B)	(千円) 1,615	うち過年度残額 (千円) 1,615
		計 (A+B)	(千円) 4,844	うち過年度残額 (千円) 4,844
		その他 (C)	(千円) 0	
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別 (注1)	公	(千円) 26	うち過年度残額 (千円) 26
		民	(千円) 3,203	うち過年度残額 (千円) 3,203
			うち受託事業等 (注2) (千円) 3,203	うち過年度残額 (千円) 3,203
	備考			

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業			
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業 イ 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業			
事業名	【No.19 (介護分)】 ワークライフバランス推進事業		【総事業費 (計画期間の総額)】 5,519 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域			
事業の実施主体	広島県			
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日			
背景にある医療・介護ニーズ	今後増加が見込まれる介護・医療ニーズに対応するには、看護職員の離職防止・定着を図る必要がある。			
	アウトカム指標	アウトカム指標： 介護・医療施設従事看護職員数 ※厚生労働省「衛生行政報告例（隔年調査）」による 44,871人（R7）（※R11目標 45,650人 第8次広島県保健医療計画）		
事業の内容	<p>○相談対応、アドバイザー派遣において、訪問看護をはじめとする介護分野と医療分野の連携や、地域包括ケアシステム構築の取組を加えることで内容をより充実させ、介護と医療の双方に携われるスキルを持った人材の確保・養成を図る。</p> <p>○訪問看護ステーション職員や看護管理者等に対する相談、看護管理者に対する研修を実施し、看護職員が職場と生活の調和（ワークライフバランス）を実現させ、健康で働き続けられる職場づくりを支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護施設を含めた就業に関する相談窓口の設置 ・アドバイザー派遣 ・研修会の実施 			
アウトプット指標	<p>○ナースセンター相談窓口（常設）</p> <p>○産業カウンセラー相談 2回/月（広島） 1回/月（福山）</p> <p>○希望のある看護管理者へのアドバイザーからの具体的方法伝達 4施設</p> <p>※相談業務は介護現場に携わる職員も対象</p>			
アウトカムとアウトプットの関連	就業に関する相談や施設に対するアドバイザー派遣、研修会の実施により、健康で働き続けられる職場づくりを支援し、離職防止・定着を進め、看護職員数の維持・確保を図る。			
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 5,519	
		基金		
		国 (A)	(千円) 3,679	うち過年度残額 (千円) 3,679
		都道府県 (B)	(千円) 1,840	うち過年度残額 (千円) 1,840

		計 (A+B)	(千円) 5,519	うち過年度残額 (千円) 5,519
		その他 (C)	(千円) 0	
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別 (注1)	公	(千円) 24	うち過年度残額 (千円) 24
		民	(千円) 3,655	うち過年度残額 (千円) 3,655
			うち受託事業等 (注2) (千円) 3,655	うち過年度残額 (千円) 3,655
備考				

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業		
	(大項目) 基本整備 (中項目) 基盤整備 (小項目) 人材育成等に取り組む事業所の認証評価制度実施等事業		
事業名	【No.20 (介護分)】 福祉・介護現場の職場改善事業 (優良法人の認証及びコンサルティング)	【総事業費 (計画期間の総額)】	9,287 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域		
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会		
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
背景にある医療・介護ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・県内事業所等の就業環境改善や人材確保策に係る取組などにより、採用率は上昇傾向にあるが、離職率については、全産業計と比べて高い水準となっており、依然として、離職率の高い職種というイメージが固定している。 ・職員に対する仕事の満足度調査では、約半数の職員が、「仕事の内容・やりがい」に満足と答えているが、技能形成やキャリアアップに関する項目の満足度は低い。 また、働く上での悩みや不満等に関しては、人手不足、賃金などの回答が多い。 ・令和5年度介護労働実態調査によると、介護従事者は、「身体的負担が大きい」(32.2%)、「精神的にきつい」(23.4%)、「賃金が低い」(40.4%)など負担が大きいため、他産業に比べ全体的にマイナスイメージが高く、敬遠されている。選ばれる職場となるよう就業環境の改善を行うと同時に就職者への「見える化」に取り組むことが必要である。 また、介護従事者は、「人手が足りない」(51.0%)、「有給休暇が取りにくい」(20.3%)など、労働条件について働く上での悩み、不安、不満をかかえている。 		
	アウトカム指標	県内の介護職員数 52,485 人 (R7)	
事業の内容	優良法人の認証制度(2段階)を設け、制度のPRを行うことにより、「見える化」をさらに図る。		
アウトプット指標	優良事業所の認証及びコンサルティングの実施 認証 459 法人 (累計)、コンサル 32 法人		
アウトカムとアウトプットの関連	施設・事業所の就業環境を改善し、「見える化」することにより人材の確保・育成・定着を図る。		
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 9,287
		基金 国 (A)	うち過年度残額

			(千円) 6,191	(千円) 0
		都道府県 (B)	(千円) 3,096	うち過年度残額 (千円) 0
		計(A+B)	(千円) 9,287	うち過年度残額 (千円) 0
		その他(C)	(千円) 0	
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別(注1)	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 6,191	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等(注2) (千円) 6,191	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業		
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 長期定着支援 (小項目) 介護職員長期定着支援事業 ハ 若手介護職員交流推進事業		
事業名	【No.21 (介護分)】 福祉・介護現場の職場改善事業 (合同入職式開催事業)	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,013 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域		
事業の実施主体	一般社団法人広島県介護福祉士会		
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
背景にある医療・介護ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内事業所等の就業環境改善や人材確保策に係る取組などにより、採用率は上昇傾向にあるが、離職率については、全産業計と比べて高い水準となっており、依然として、離職率の高い職種というイメージが固定している。 ・ 職員に対する仕事の満足度調査では、約半数の職員が、「仕事の内容・やりがい」に満足と答えているが、技能形成やキャリアアップに関する項目の満足度は低い。 また、働く上での悩みや不満等に関しては、人手不足、賃金などの回答が多い。 ・ 令和5年度介護労働実態調査によると、介護従事者は、「人手が足りない」(51.0%)、「有給休暇が取りにくい」(20.3%)など労働条件について働く上での悩み、不安、不満をかかえている。 		
	アウトカム指標	県内の介護職員数 52,485 人 (R7)	
事業の内容	合同入職式に新人職員が一堂に会し、介護施設・事業所を超えた職員同士のネットワークを構築するとともに、研修会及び2年目職員へのフォローアップ研修を開催し、介護の魅力を確認する機会を設けることにより、若手職員の離職防止・育成・定着を図る。		
アウトプット指標	新人職員合同入職式・研修会 参加者 120 人		
アウトカムとアウトプットの 関連	合同入職式に新人職員が一堂に会し、介護施設・事業所を超えた職員同士のネットワークを構築するとともに、研修会及び2年目職員へのフォローアップ研修を開催し、介護の魅力を確認する機会を設けることにより、若手職員の離職防止・育成・定着を図る。		
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 2,013
	基金	国 (A)	(千円) 1,342
			うち過年度残額 (千円) 0

		都道府県 (B)	(千円) 671	うち過年度残額 (千円) 0
		計 (A + B)	(千円) 2,013	うち過年度残額 (千円) 0
		その他 (C)	(千円) 0	
	基金充当額 (国費) に おける公民 の別 (注1)	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 1,342	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等 (注2) (千円) 1,342	うち過年度残額 (千円) —
	備考			

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業				
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業 イ 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業				
事業名	【No.22 (介護分)】 福祉・介護現場の職場改善事業 (人材マネジメントスキル向上)	【総事業費 (計画期間の総額)】	1,475 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域				
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・県内事業所等の就業環境改善や人材確保策に係る取組などにより、採用率は上昇傾向にあるが、離職率については、全産業計と比べて高い水準となっており、依然として、離職率の高い職種というイメージが固定している。 ・職員に対する仕事の満足度調査では、約半数の職員が、「仕事の内容・やりがい」に満足と答えているが、技能形成やキャリアアップに関する項目の満足度は低い。 また、働く上での悩みや不満等に関しては、人手不足、賃金などの回答が多い。 ・令和5年度介護労働実態調査によると、介護従事者は、「人手が足りない」(51.0%)、「有給休暇が取りにくい」(20.3%)など労働条件について働く上での悩み、不安、不満をかかえている。 				
	アウトカム指標	県内の介護職員数 52,485 人 (R7)			
事業の内容	労務管理等の人材マネジメントスキル向上を目的とした研修を開催				
アウトプット指標	人材マネジメントスキル向上研修 2回 (200人)				
アウトカムとアウトプットの関連	管理者等に対して労働法規等の理解を促進し、施設・事業所の就業環境を改善することにより人材の確保・育成・定着を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費	(千円)		
		(A+B+C)	1,475		
		基金 国 (A)	(千円)		うち過年度残額 (千円)
		983	0		
都道府県 (B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)			
492	0				
計 (A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)			

			1,475	0
		その他 (C)	(千円) 0	
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別 (注1)	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 983	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等 (注2) (千円) 983	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業			
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業 ハ 介護生産性向上推進総合事業			
事業名	【No.23 (介護分)】 福祉・介護現場の職場改善事業 (介護職場サポートセンターひろしま)	【総事業費 (計画期間の総額)】	26,655 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域			
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・介護職場サポートセンターひろしま (広島県社会福祉協議会)			
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日			
背景にある医療・介護ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・県内事業所等の就業環境改善や人材確保策に係る取組などにより、採用率は上昇傾向にあるが、離職率については、全産業計と比べて高い水準となっており、依然として、離職率の高い職種というイメージが固定している。 ・職員に対する仕事の満足度調査では、約半数の職員が、「仕事の内容・やりがい」に満足と答えているが、技能形成やキャリアアップに関する項目の満足度は低い。 また、働く上での悩みや不満等に関しては、人手不足、賃金などの回答が多い。 ・令和5年度介護労働実態調査によると、介護従事者は、「人手が足りない」(51.0%)、「有給休暇が取りにくい」(20.3%)など労働条件について働く上での悩み、不安、不満をかかえている。 			
	アウトカム指標	県内の介護職員数 52,485 人 (R7)		
事業の内容	総合相談センター設置・運営経費等への補助			
アウトプット指標	相談支援 介護事業所 240 事業所			
アウトカムとアウトプットの関連	介護事業所に対して生産性向上等に資する取組を支援するセンター設置経費等を補助し、施設・事業所の就業環境を改善等の取組を推進することにより人材の確保・育成・定着を図る。			
事業に要する費用の額	金額	総事業費	(千円)	
		(A+B+C)	26,655	
		基金		
		国 (A)	(千円)	
		17,770		
		都道府県 (B)	(千円)	うち過年度残額 (千円) 0
		8,885		
		計 (A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)

			26,655	0
		その他 (C)	(千円) 0	
	基金充当額 (国費)に おける公民 の別 (注1)	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —
		民	(千円) 17,770	うち過年度残額 (千円) —
			うち受託事業等 (注2) (千円) 17,770	うち過年度残額 (千円) —
備考				

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業				
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 介護分野への就職に向けた支援金貸付事業 イ 福祉系高校修学資金貸付事業				
事業名	【No.24 (介護分)】 介護福祉士修学資金等貸付事業 (福祉系高校修学資金貸付事業)		【総事業費 (計画期間の総額)】	5,732 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域				
事業の実施主体	広島県社会福祉協議会				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	令和22年度には、10,039人の介護職員の需給ギャップが生じると推計されており、安定的に介護職員を確保するためには、学生の介護分野への参入を促していくことが重要である。				
	アウトカム指標	アウトカム指標： 3年未満の介護職員の離職率50% (R11)			
事業の内容	福祉系高校の学生に対する修学資金の貸付				
アウトプット指標	福祉系高校修学資金貸付人数 15人				
アウトカムとアウトプットの関連	返還免除付きの貸付を行うことにより、介護人材の確保及び定着を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 5,732	
		基金	国 (A)	(千円) 3,821	うち過年度残額 (千円) 0
			都道府県 (B)	(千円) 1,911	うち過年度残額 (千円) 0
			計 (A+B)	(千円) 5,732	うち過年度残額 (千円) 0
		その他 (C)		(千円) 0	
	基金充当額 (国費) における公民の別 (注1)	公	(千円) —	うち過年度残額 (千円) —	
		民	(千円) 3,821	うち過年度残額 (千円) —	
	うち受託事業等 (注2)		(千円)	うち過年度残額 (千円)	

			3,821	—
備考				

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イヤロなども記載すること。)

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業				
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 介護分野への就職に向けた支援金貸付事業 ロ 介護分野就職支援金貸付事業				
事業名	【No.25 (介護分)】 介護福祉士修学資金等貸付事業 (介護分野就職支援金貸付事業)		【総事業費 (計画期間の総額)】	8,892 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域				
事業の実施主体	広島県社会福祉協議会				
事業の期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	令和22年度には、10,039人の介護職員の需給ギャップが生じると推計されており、安定的に介護職員を確保するためには、他業種からの転職者等に対し、介護分野への参入を促していくことが重要である。				
	アウトカム指標	アウトカム指標： 3年未満の介護職員の離職率50% (R11)			
事業の内容	他業種で働いていた者等が介護職として就職する際の必要経費に係る支援金の貸付				
アウトプット指標	介護分野就職支援金 30人				
アウトカムとアウトプットの関連	返還免除付きの貸付を行うことにより、介護人材の確保及び定着を図る。				
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	
		(A+B+C)		8,892	
	基金	国 (A)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			5,928	0	
		都道府県 (B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
			2,964	0	
		計 (A+B)	(千円)	うち過年度残額 (千円)	
		8,892	0		
	その他 (C)		(千円)		
			0		
基金充当額 (国費) における公民の別 (注1)	公	(千円)	うち過年度残額 (千円)		
		—	—		
民	(千円)	うち過年度残額 (千円)			
	5,928	—			

			うち受託事業等（注2） （千円） 5,928	うち過年度残額 （千円） —
備考				

（注1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注2）事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）事業区分の小項目については全て記載すること。（イヤロなども記載すること。）

(2) 事業の実施状況

別紙1「事後評価」のとおり。